FRANKE & HEIDECKE



Rolleiflex Hy6

取扱説明書

INDEX

INDEX

はじめに

Rolleiflex Hy6

この度は Rolleiflex Hy6 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
このカメラを長い間ご愛用いただくために、本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。

ご注意

Rolleiflex Hy6には、AFレンズ群とAFDレンズ群の二つのタイプの交換レンズがあります。
6008AF用に使用できるAFレンズ群は、Hy6にも使用できます。Hy6専用に新たに用意されたAFDレンズはマニュアルの絞りリングを装備していません。
絞りの設定にはハンドグリップのスクロールダイヤルを使います。

Rolleiflex Hy6は他の精密機械と同じく注意深く取扱ってください。
特に交換式マガジンやデジタルバック、交換レンズなどを取付け・取外す際は最大限の注意を払って行なってください。

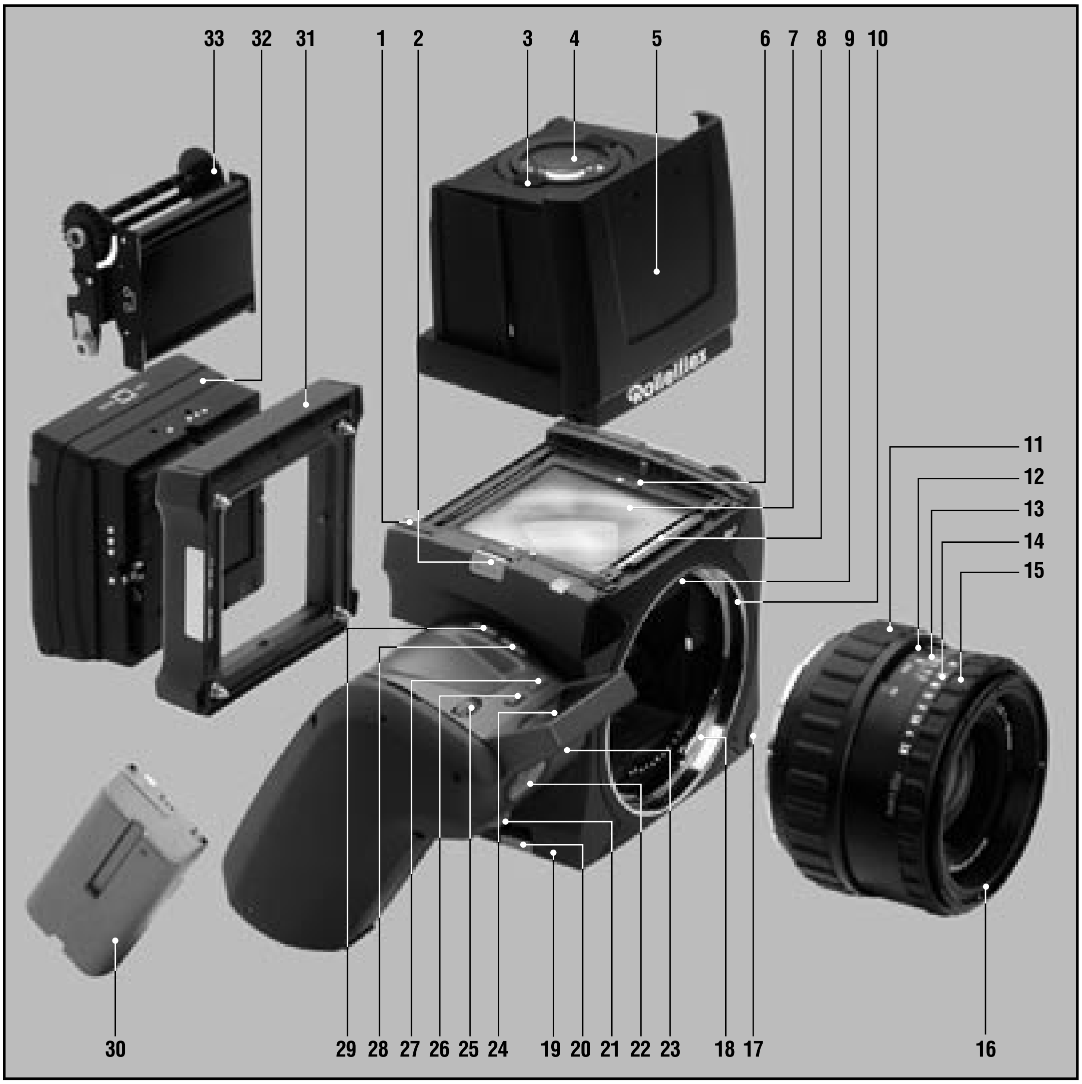
※カメラにレンズが装着されていない時は、内部のミラー、特殊反射防止面に絶対に手を触れないようにしてください。この場合は必ず保護キャップをボディーに装着してください。
※カメラにマガジンやデジタルバックが装着されていない時は、露出している遮光シャッターが圧迫されないようにしてください。この場合は必ず後保護カバーをボディーに装着してください。
※カメラから取り外した交換式マガジンは必ず引き板を閉じ、さらに保護カバーを装着してください。

6000シリーズ旧モデルをお使いの方へ

～旧型のSLX、6002、6006用の交換レンズ及びコンポーネント～

■ PQ/PQSでない、SLX、6002、6006用の交換レンズは、Hy6には使用できません。
■ 6008用のPQ/PQSレンズは、フォーカスエイドにより使用できます。
■ FM1 / ME1 / タイマー / マスターコントロール / SRC/MRC120は、Hy6には使用できません。
■ また、6000シリーズ用のファインダーフード、ストラップ、マガジンアダプターは、Hy6とは互換性がありません。

各部の名称



1. ストラップホルダー左右

2. ビューファインダー
取り外し ボタン左右

3. ルーペホルダー

4. ルーペ

5. ファインダーフード

6. ヒンジフレーム

7. ファインダースクリーン

8. ファインダーディスプレイ

9. レンズバヨネット赤マーク

10. バヨネットマウント

11. フォーカスリング

12. フォーカススケール

13. 距離および被写界深度スケール

14. 絞り目盛(AFDレンズ以外)

15. シャッター優先および
絞りリング(AFDレンズ以外)

16. フィルターバヨネット

17. レンズ解除ボタン

18. カメラ側接点

19. シンクロターミナル

20. グリップ調節解除ボタン

21. 絞り/メニューダイヤル

22. シャッターレリーズボタン

23. Mini USB ソケット

24. グリップディスプレイ

25. シャッタースピード/
メニューダイヤル

26. カメラ基本設定ボタン

27. 特殊機能設定ボタン

28. ミラーアップボタン

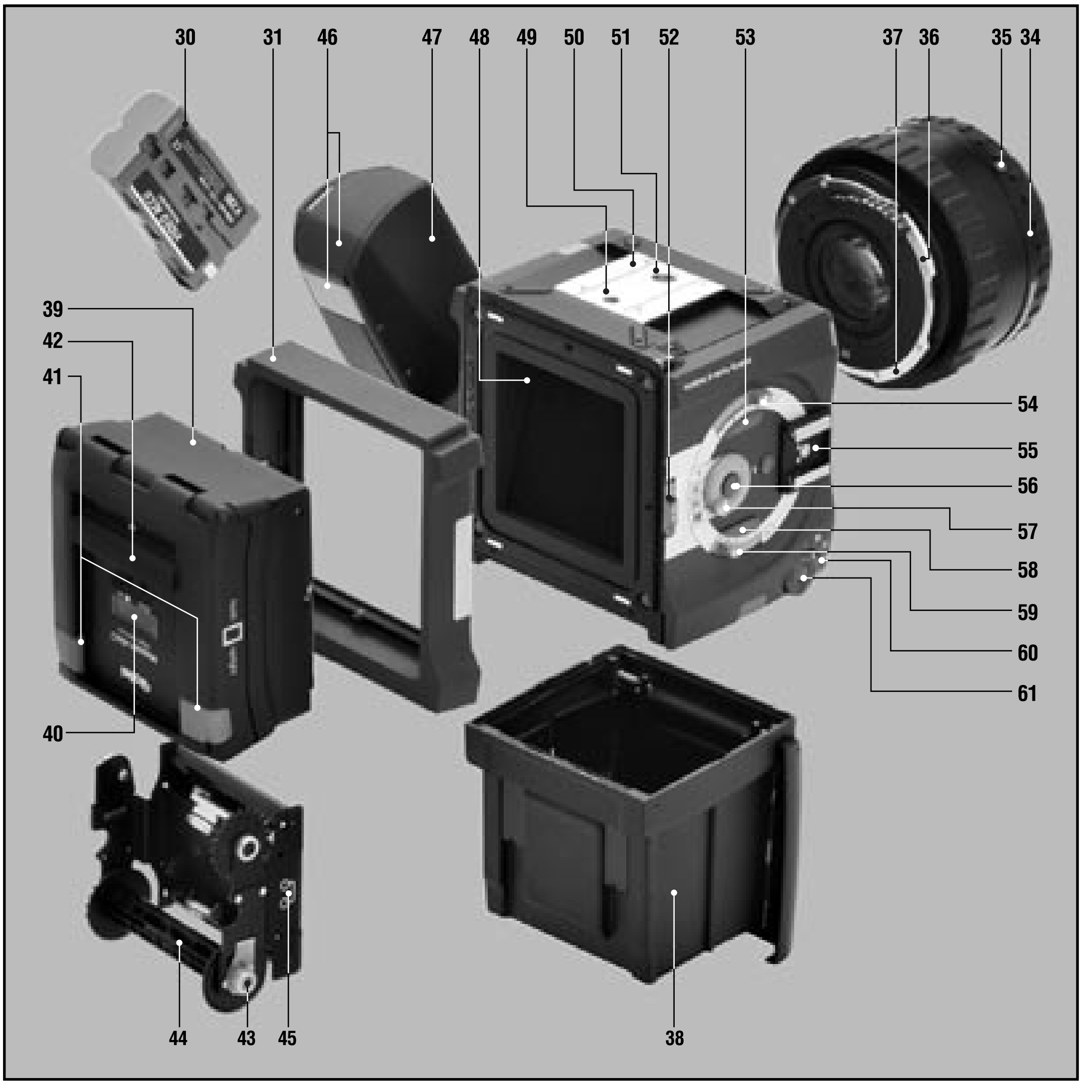
29. 絞り込みボタン

30. 充電式バッテリー

31. マガジンアダプター

32. 4560 マガジン

33. フィルムインサート



34. 交換レンズ

35. 絞りリング解除(AFDレンズ以外)

36. 接点付きレンズ側バヨネット

37. 赤色装着マーク

38. 取り外し式ファインダーフード

39. マガジンバック

40. フィルムデータ表示LCD

41. フィルム交換解除ボタン左右

42. 引き板グリップハンドル

43. スプールクリップ

44. 空スプール

45. フィルム装填指示マーク

46. バッテリーボックス

47. ハンドグリップ

48. 遮光シャッター

49. 三脚ネジ穴(1/4")

50. Novoflex 三脚プレート用
クイックレリーズアダプター

51. 三脚ネジ穴(3/8")

52. マガジンアダプター解除ボタン

53. フォーカスモードセレクタボタン

54. フォーカスモードメニュースイッチ

55. フラッシュ用ホットシュー

56. ISOおよびEVメニューボタン

57. 測光パターンセレクタダイヤル

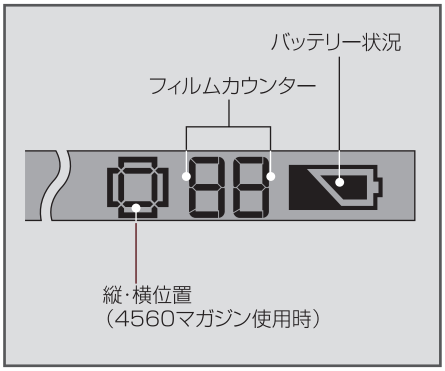
58. 露光モードメニューボタン

59. 露光モードセレクタスイッチ

60. 電源スイッチ

61. 撮影モードメニューボタン

カメラの準備



バッテリー状況

カメラの**電源スイッチ [60]** を ON にすると、バッテリー状況が自動的にチェックされ、**ファインダーディスプレイ [8]** に表示されます。

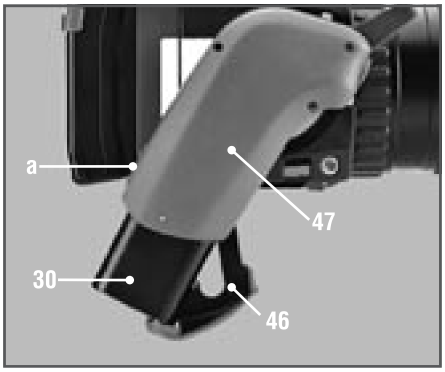
ファインダーディスプレイ表示
マーク：フル充電、または充分に容量が残っている
マーク：残容量が少なくなっている

バッテリーマークが を表示したら直ちに充電を行ってください。特に気温の低い場所での撮影においてはバッテリーの消耗が激しくなるために重要です。

※常にフル充電状態の予備バッテリーを携行することをお勧めします。

バッテリーの充電

本製品にはSony製の充電器（AC-V700）が同梱されています。使用方法は製品に添付されている説明書に従ってご使用ください。



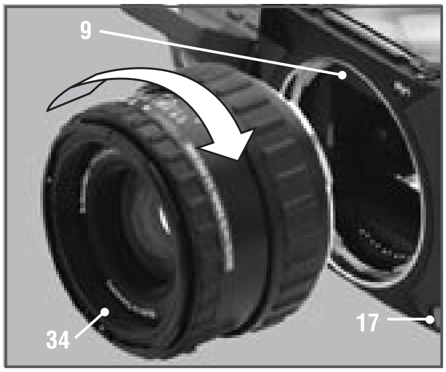
バッテリーの装着

バッテリーボックス [46] のカバーを開け、バッテリーを装着します。
解除ボタン（ **a** ）押して**バッテリーボックス [46]** を開け、充電の完了した**バッテリー [30]** をカメラの**ハンドグリップ [47]** に図のように入れます。バッテリーボックスカバーを元の位置にクリック音がするまで閉めます。

バッテリーの交換

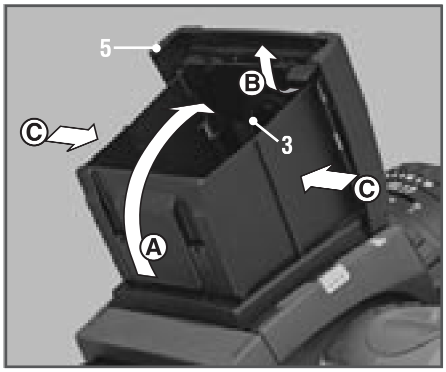
バッテリーボックス [46] のカバーを開け、**バッテリー [30]** を取り出します。前述の要領で充電済みのバッテリーを装填し、カバーを閉じます。

ご注意
※バッテリーを交換する時は、カメラの電源を切ってください。電源 ON の状態で交換すると、露出設定等の情報が保存されない場合があります。
※バッテリーの消耗を防ぐため、カメラを使用し終わったら電源スイッチを OFF にするようにしてください。
※充電式バッテリーは、使用していなくても少しづつ放電します。常に使用可能な状態に保つために、2-3 ヶ月に一度は充電をするようにしてください。



レンズの取付け

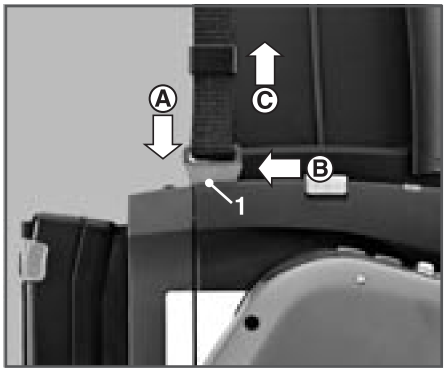
レンズ解除ボタン [17] を押しながらボディーキャップを反時計方向に回して取り外します。
交換レンズ [34] の赤い印をカメラバヨネットの**レンズバヨネット赤マーク [9]** に合わせて差し込み、時計方向に回転させて固定します。
ご注意
テレコンバーター、接写リング、ベローズユニット等を使用する場合は、これらのアクセサリーを予めレンズに装着してから、カメラに取り付けてください。



ファインダーフードの開閉

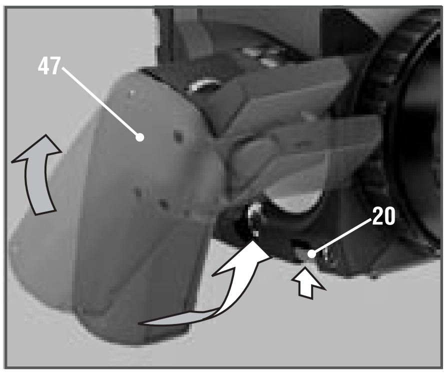
ファインダーフードを開ける際は、**ファインダーフード [5]** の後部を引き上げ、矢印 Ⓐ のように前に開きます。ルーペを使用する際は、タブをカバーの前方、矢印 Ⓑ の方向に押して**ルーペホルダー [3]** を引き出します。

ファインダーフードを閉じる際は、まずルーペを降ろします。フードの両方のサイドパネルを内側に押すと（矢印 Ⓒ）、フードは閉じます。



ストラップの取付け

自動ロックタイプのストラップ金具を、カメラ側左右の**ストラップホルダー [1]** に、ロックするまで真直ぐに差し入れます。（矢印 Ⓐ）
取り外す場合は、ストラップの金具を軽く押し下げ、カメラバック側に押して（矢印 Ⓑ ）ロックを外し、上に引き上げます（矢印 Ⓒ）。

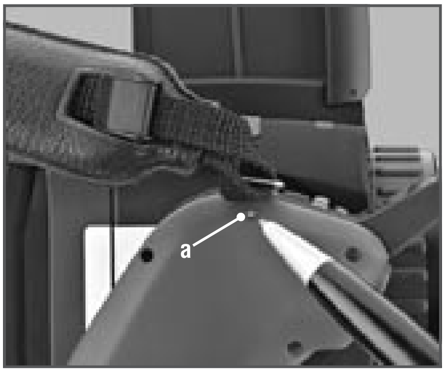


ハンドグリップのポジション変更

ハンドグリップ [47] は 4 箇所での角度調節が可能で、快適な操作ができるようになっています。

グリップの角度を変更するには、カメラ側の**グリップ調節解除ボタン [20]** を、グリップが自由に動けるようになるまで上に押します。グリップの角度を、クリックが入る位置まで動かします。

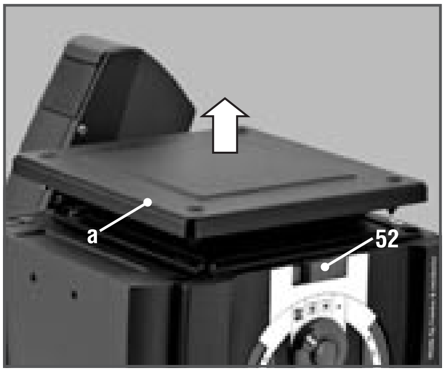
カメラの準備



リストストラップの調節

右手だけで安全に保持できるようにバックルの部分でベルトの長さを調節します。

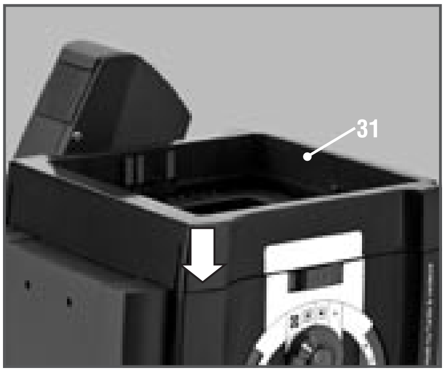
リストストラップを取り外すには、ストラップホルダーのロックピン（**a**）を、ボールペン等の先の尖ったもので押し込み、ホルダーを引き抜きます。ストラップを取り付けるには、逆の手順で行ないます。



フィルムマガジンの取付け

マガジンアダプター解除ボタン [52] を押してリヤボディキャップ（**a**）を上に引き上げて外します。
次に**マガジンアダプター [31]** を 4 箇所の穴を合わせ、クリック位置まで押し込んで装着します。

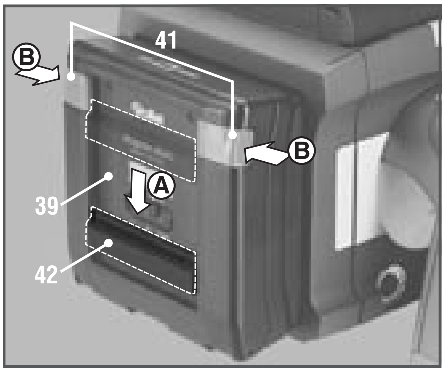
マガジンをフレームにロックするまで真直ぐに入れます。縦位置、横位置のシンボルマークは上方から見て正しくなるようにします。



デジタルバックの取付

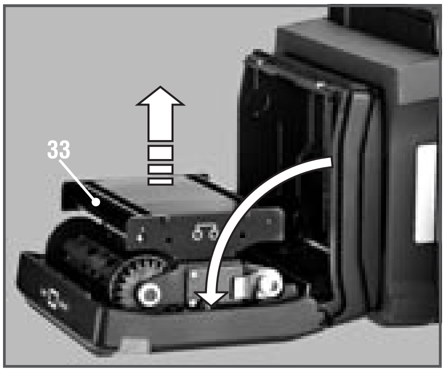
デジタルバックの装着も、フィルムマガジンと同様に行ないます。
Hy6 対応のデジタルバックはアダプターフレームを備えていますので、マガジンアダプターは必要ありません。





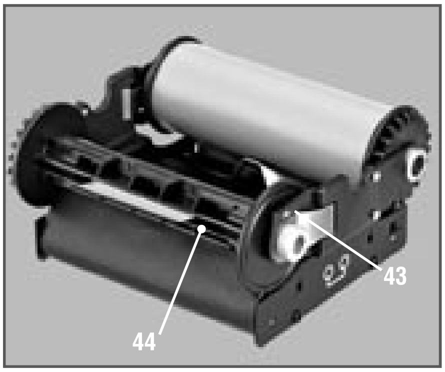
フィルムマガジンを開ける

引板グリップハンドル [42] を "magazine change/turn" の方向一杯に動かし（矢印 Ⓐ）、フィルム交換解除ボタン [41] を両側から押して（矢印 Ⓑ ）マガジンバック [39] を開き、フィルムインサート [33] を取り出します。



フィルムインサートを取り出す

図のようにマグネット内蔵の**マガジンバック [39]** から、**フィルムインサート [33]** を上向きに引き上げて取り出します。

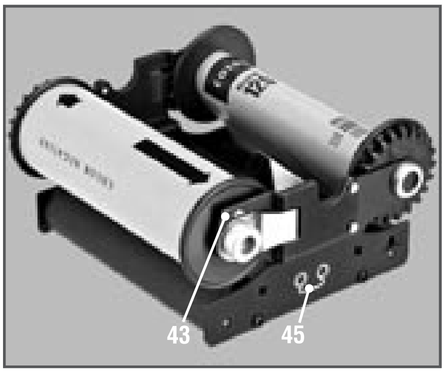


フィルムインサートにフィルムを装填する

フィルムインサート [33] は対称に設計されていますので、空スプールを入れ替える必要はありません。

フィルムスプールで**スプールクリップ [43]** を外側に押して、フィルムのリーダーペーパーの黒い面が外側になるようにスプールを定位置に装填します。

リーダーペーパーを、**フィルム装填指示マーク [45]** のように圧板側を経由して**空スプール [44]** に差し込みます。



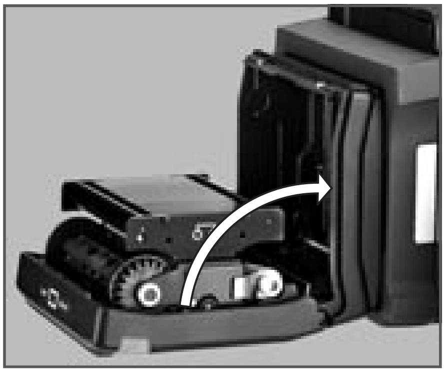
スプロケットを回転させてフィルムを送り、フィルムのスタートマークを**スプールクリップ [43]** の矢印に合致させます。

フィルムマガジン



フィルムインサートをマガジンに装填する

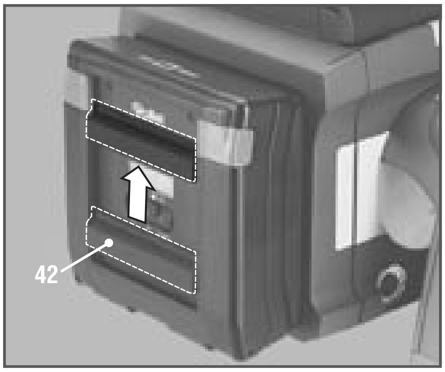
フィルムスプールが "|⟝⟞|" マーク側に、
空スプールが "|—|" マーク側にくるようにフィルムインサートをマガジンに装填します。



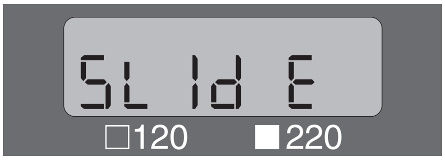
フィルムマガジンを閉じる

マガジン [32] を、クリック音がするまでしっかりと閉じます。カウンターは自動的に "00" にリセットされます。マガジンの液晶ディスプレイの電源が入ると、標準ディスプレイを表示します。（P13 参照）
フィルムのタイプと感度の設定は以下の手順で行ないます。（P15 参照）

マガジン背面の「mode」ボタンを一度押します。ISO または DIN が表示されます。「+」ボタンを押して ISO か DIN を選択します。その後、感度を「+」「-」ボタンで設定します。



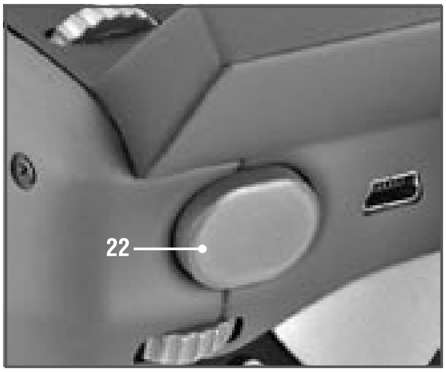
引板グリップハンドル [42] を " Rollei " の方向に動かします。これにより引き板が開きます。これが全開にならないと、ディスプレイに "SLI d E" と表示され、シャッターは切れません。これはマガジンがカメラに装着されていて、カメラの電源が入っている場合のみ表示されます。





フィルム送り

シャッターレリーズボタン [22] を 1 回押すごとにフィルムが送られます。
フィルム番号が LCD の EXP.NO の下に表示されます。
120 タイプのフィルム使用時はカウンターが「16」まで、
220 タイプフィルム使用時は「32」までカウントを行います。



マガジンの LCD ディスプレイ

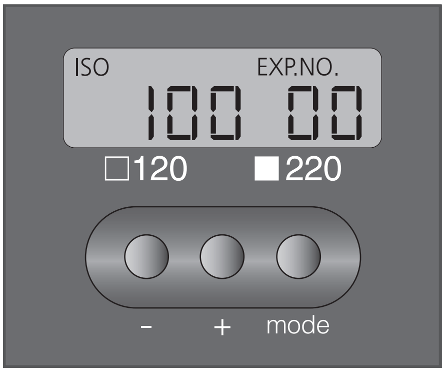
マガジン背面の**フィルムデータ表示 LCD [40]** からマガジンの主な機能とモードが表示されます。



マガジンの LCD 表示を ON にする

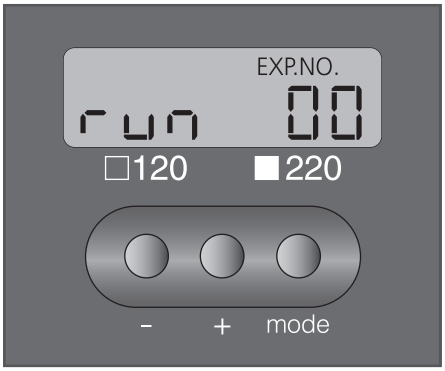
マガジンを装着した状態で、**シャッターレリーズボタン [22]** を押してください。
カメラの電源が ON になっている状態でマガジンの LCD 表示は ON となります。カメラの電源を切る事で、自動的にこの LCD 表示も消えます。
カメラが OFF になっているとき、またはマガジンが取り外されているときは、マガジンの「mode」ボタン（図参照）を押してください。
20 秒間ボタン操作が行われない場合、LCD は全ての設定をメモリーに記憶した状態で表示のみ消えます。

※ご注意：極端に温度が高い、または低い場合は表示が見えにくい場合があります。



マガジンの標準ディスプレイ

マガジンの標準ディスプレイはカメラの電源が ON の状態で表示されます。この表示は点滅しません。
このディスプレイには、バッテリー交換後にメモリーに記憶された最後の設定が表示されます。

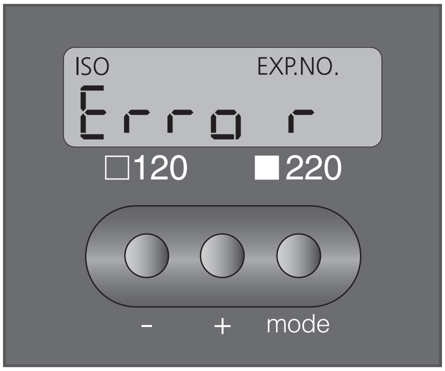


デフォルト設定

バッテリーを交換するとメモリーはリセットされ、以下のデフォルト設定に戻ります。

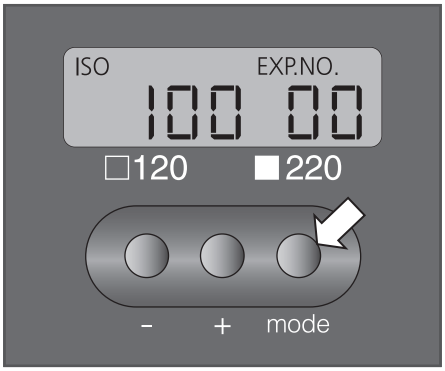
●フィルムスピードモード：ISO
●フィルムスピード：ISO100
●フレームカウンター：00
●フィルムサイズ：120（□）
●カメラのディスプレイのフレームカウント：無（off）
●フィルム送り：1 コマ送り（run）

フィルムマガジン



エラー検出

以下の状況で LCD に "Error" が表示されます。
→フィルムが装填されていない状態でシャッターが押された場合
→フィルム送りの誤作動が発生した場合
※ "Error" 表示は約 1 秒後にクリアされます。



モードボタン

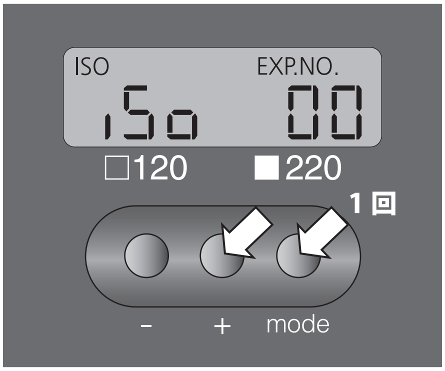
マガジン背面の「mode」ボタンを押すたびに以下の設定項目が切り替わります。

iSo/din----- フィルム感度表示モード
（P15「フィルム感度の設定」参照）
120/220---- フィルムタイプ
（P15「フィルムタイプの設定」参照）
off/on------ カメラディスプレイの
フレームカウンター表示 ON/OFF
（P12「フィルム送り」参照）
run/StoP---- 多重露出モード時のフィルム送り ON/OFF
（P16「多重露光」参照）

設定する項目を選択します。

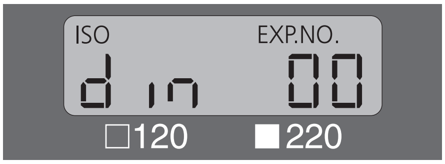
マガジン背面の「+」ボタンでそれぞれの設定を選択したら、「-」ボタン、またはカメラのシャッターレリーズボタン [22] を押して決定します。
表示は標準ディスプレイに戻ります。

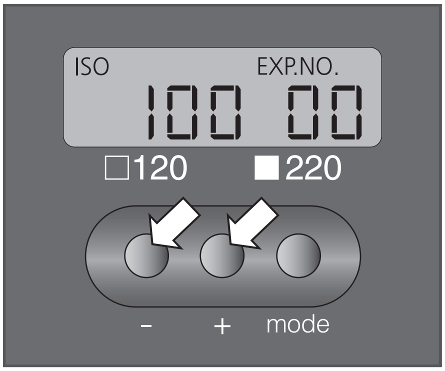
※それぞれの設定の詳細は次ページ以降をお読みください。



フィルム感度表示モードの事前設定

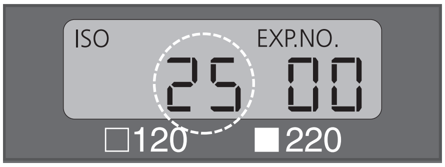
マガジン背面の「mode」ボタンを 1 回押します。
「+」ボタンを押すごとに ISO と DIN のフィルムスピード表示モードが切り替わります。
表示は標準ディスプレイに戻ります。（P13 参照）

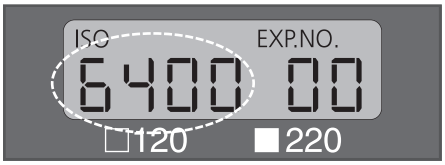


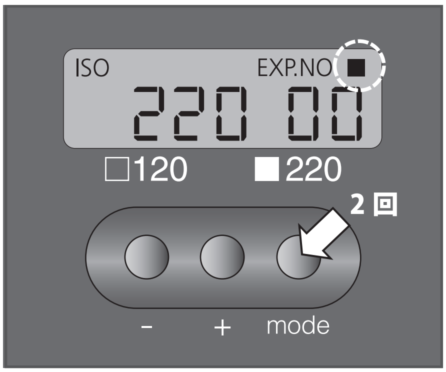


フィルム感度の設定

標準ディスプレイの状態から段階的にフィルム感度を変える場合はマガジンの「-」「+」ボタンを使います。
下げる場合は「-」ボタンを、上げる場合は「+」ボタンを押します。
ISO 表示のモードでは ISO25 から ISO6400 までの表示が可能で DIN モードでは 15°から 39°までの表示が可能です。



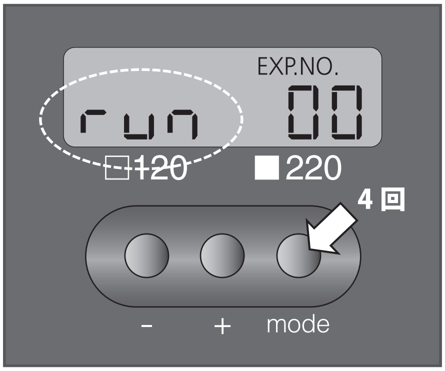


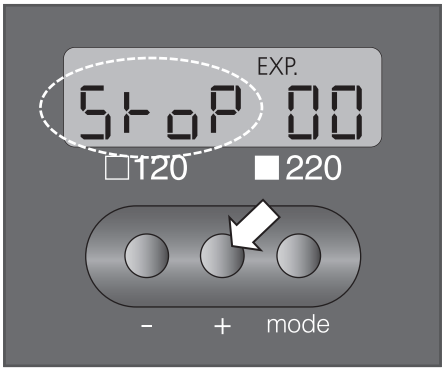


フィルムタイプの設定

マガジン背面の「mode」ボタンを 2 回押します。
LCD に "120" または "220" 表示されます。
「+」ボタンを押すごとにフィルムサイズ "120" と "220" が切り替わります。
220 フィルムが選択されている場合、EXP.NO の右側に黒い四角が表示されます。（図参照）

フィルムマガジン





多重露光

フィルム送りを中止する

マガジン背面の「mode」ボタンを 4 回押します。
LCD に " run " 表示されます。
この設定では、撮影が終わるごとに自動的にフィルムが 1 コマ巻き上げられます。

「+」ボタンを押すとマガジンのフィルム送りを中止することができます。
LCD に " StoP " が表示されます。露出の後のフィルム巻き上げは行われません。フィルム送りが無効になっている場合 " StoP " は、25 EXP. のフィルム番号に代わり、実際の露出回数が "EXP.NO." の下に表示されます。

「-」ボタンを押して標準ディスプレイに戻します。
ディスプレイに個別の露出回数が表示されます。

フィルム送りを有効にする

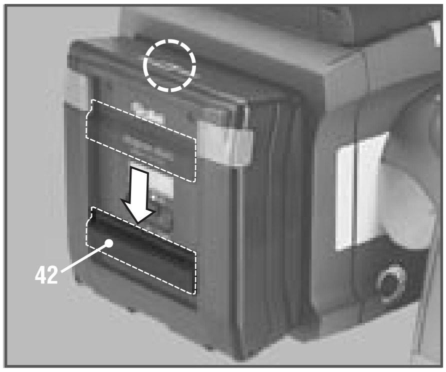
多重露光の最後の露出を行う前に、マガジン背面の「+」ボタンを押します。
LCD の露出回数表示の左隣に " run " 表示されます。
LCD 上の " run " 表示が消えたら、カメラのシャッターを切り、撮影したフィルムのコマを巻き上げます。
この時点で LCD は撮影コマ数を表示してます。

他の操作方法

多重露出の最後の露出を行う前に、マガジン背面の「mode」ボタンを 4 回押します。
LCD に " StoP " が表示されます。
「+」ボタンを押すとマガジンのフィルム送りが再び有効になります。
LCD に " run " 表示されます。

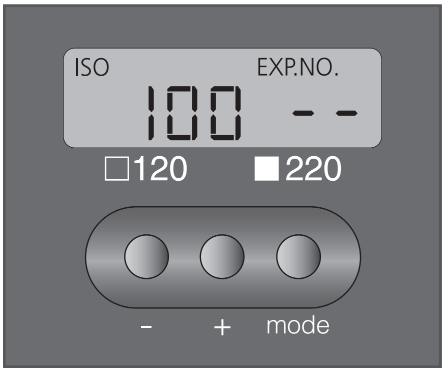
ビューファインダーとファインダーマスク

ビューファインダーのハイ D スクリーンには 6x4.5cm のタテ・ヨコ画面表示があります。
それに加えてビューファインダーマスクを装着することもできます。



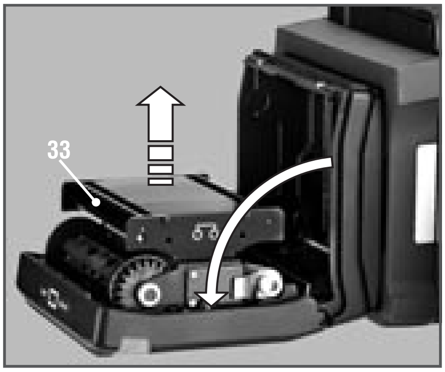
タテ・ヨコ位置の変更

マガジンの**引板グリップハンドル [42]** を "change/turn" 矢印の方向へ最後まで動かし、引き板を閉じます。
マガジン [32] を**マガジンアダプター [31]** から引き抜きます。
マガジンを撮影するフォーマット・マーク、"quer □ lateral"（ヨコ位置）または "hoch ▯ upright"（タテ位置）が、カメラ上部にくるようにして、パチン音がするまでしっかりマガジンアダプターに差し込みます。



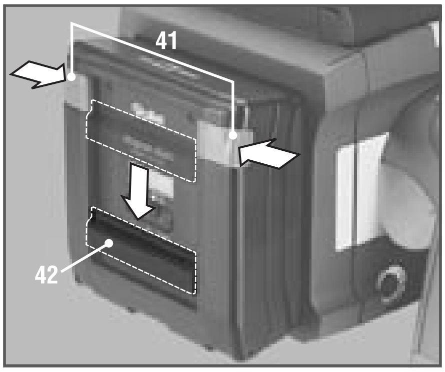
引板グリップハンドル [42] を " Rollei " の方向に動かします。
引き板が開き、マガジンはカメラに固定され、シャッターのロックが解除されます。
最後のフレームの露出が終わるとフィルムが自動的に巻き取られ、LCDの "EXP.NO." の下に " - - " が表示されます。
同時にカメラのディスプレイには " End " が表示されます。
部分的に露出を行ったフィルムを巻取る場合は、自動巻取りが開始されるフレーム番号まで空撮りを行ってください。

フィルムマガジン



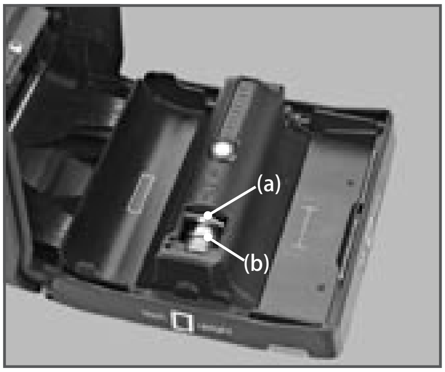
撮影済みフィルムを取り出す

最終コマの撮影終了後はフィルムは自動的に巻取られます。マガジンバックを開けて**フィルムインサート [33]** を取り出し露光済みフィルムを取り出してシールします。
フィルムインサートを再度装填して**マガジンバック [39]** を閉じます。
ご注意
マガジンバック [39] を開ける前には必ず、**引板グリップハンドル [42]** を "magazine change/turn"の方向に一杯に動かしてください。



マガジンのバッテリー交換

LCD の表示が見づらくなったら、バッテリーが消耗しています。
引き板グリップハンドル [42] を "magazine change/turn" の方向に一杯に動かし、**フィルム交換解除ボタン [41]** を両側から押して**マガジンバック [39]** を開き、**フィルムインサート [33]** をマグネットホルダーから取り出します。



バッテリースプリング (a) をバッテリーの反対方向に押し、バッテリー収納部 (b) から使用済みのボタン電池を取り外します。
使用済みボタン電池は各自治体で定められた方法で廃棄してください。
新しい 1.55V のボタン電池 2 個を、マイナス・プラスの極性を "−▮▮＋" マークに合わせて入れます。

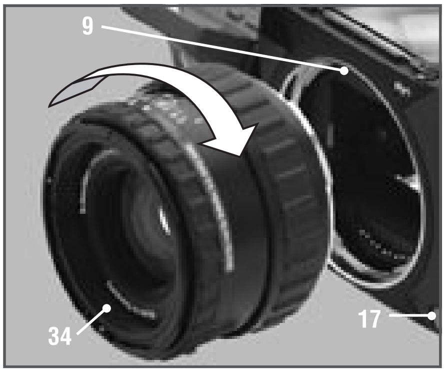


新しいバッテリーを入れると LCD の全てのセグメントが約 1 秒間点灯します。LCD が点灯しない場合はバッテリースプリング (a) を一旦電池の反対方向へ押してから戻してください。
マガジンを「パチン」と音がするまでしっかりと、**マガジンアダプター [31]** に差し込みます。
引板グリップハンドル [42] を " Rollei " の方向に動かし、マガジンはカメラに固定され、シャッターのロックが解除されます。
バッテリー交換後、メモリーは標準設定に戻ります。
バッテリー交換後はフィルム感度や必要に応じて他の設定を再度設定してください。(P14～16参照)

フィルムマガジンのトラブルシューティング

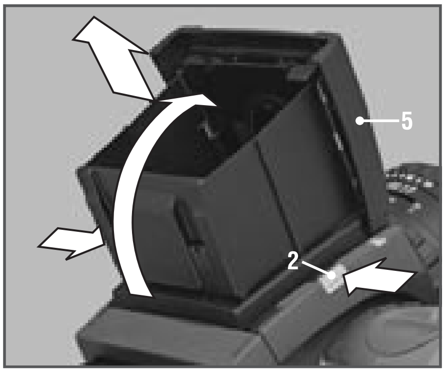
問　題	原　因	処　置
LCDがほとんど見えない	●マガジン電池の消耗	→電池を交換する（P18参照）
マガジンバックが閉まらない	●引き板が開いている	→引板グリップハンドル [42] を "magazine change/turn"の方向に完全に動かす
マガジンが装着できない	●横のマガジンフックがロックされている	→先の尖ったものを使って、注意しながらフックを外す
	●フィルムガイドが入っている	→フィルムガイドを取り出す
マガジンが装着されているがシャッターが切れない	●引き板が閉じている	→引板グリップハンドル [42] を " Rollei " の方向に動かす
マガジンが外せない、または開かない	●引き板が開いている	→引板グリップハンドル [42] を "magazine change/turn"の方向に完全に動かす
LCDに"Error"が表示されている	●フィルムが無い状態でシャッターが切られた	→本説明書（P11-12参照）に従い、フィルムを装填する
サイズ220タイプのフィルムが途中までしか撮影できない。またはマガジンが「+」「-」ボタンに応答しない	●フィルムタイプの誤設定	→フィルムタイプを設定する（P15参照）
	●電源の遮断	→マガジンのバッテリーを一度取り出し、再度入れる

アクセサリーの交換



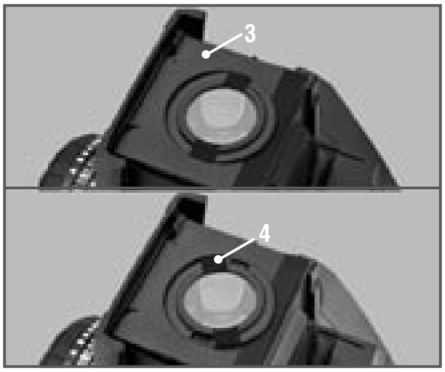
レンズの交換

レンズ解除ボタン [17] を押しながら現在装着されているレンズを反時計方向に回して取り外します。
交換レンズ [34] の赤い印をカメラの**レンズバヨネット赤マーク** [9] に合わせて差し込み、時計方向に回転させて固定します。



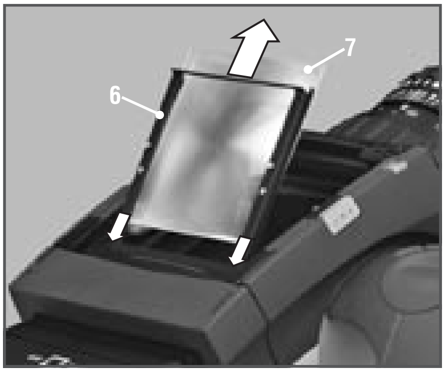
ビューファインダーの交換

標準の**ファインダーフード** [5] を開き、左右の**ビューファインダー取外ボタン** [2] を押して**ファインダーフード**を上方に引き上げ、外します。
装着するには逆の手順で行ないます。ファインダーはロックされます。



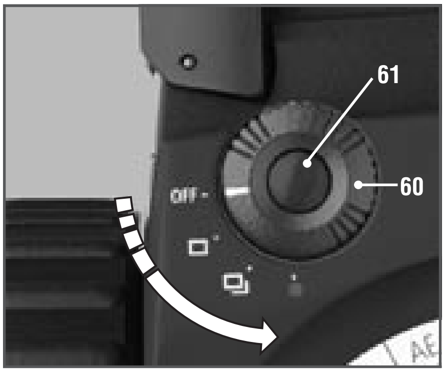
ファインダールーペの交換

眼鏡なしでファインダー像を確認できるよう、+2.5 ～ -4.5 ディオプターの視度補正ルーペが用意されています。
ルーペを交換するには、**ルーペホルダー** [3] を親指と人さし指で保持し、同時に左右のパネルをルーペホルダーに向かって押さえます。
ルーペ [4] を反時計方向に回転させて外します。
交換するルーペをルーペホルダーに取り付け、時計方向に回転させてロックします。



フォーカシングスクリーンの交換

ファインダーフード [5] を取り外し、**ヒンジフレーム** [6] を後方に引いてフレームを引き上げます。**ファインダースクリーン** [7] を引き出し、乾いた場所に置きます。
スクリーンを扱う場合は端の面だけで保持し、表面には手を触れないように注意してください。
交換スクリーンを、マット面がミラー側になるようにして保持枠とスプリングの間に装着します。
フレームを元の位置に戻し、僅かに後方に引いて両側がクリック位置にロックするようにしてください。



カメラの電源 ON/OFF

電源スイッチ [60] を□または⧉に合わせます。**シャッターレリーズボタン** [22] を軽く押すとカメラのスイッチが入ります。**グリップディスプレイ** [24] とファインダーに、すべての露出に関する情報が表示されます。

デフォルト設定では電源は約 3 分間保持されます。何か操作を行なうと 3 分間延長されます。電源を切るには、電源スイッチを OFF にします。



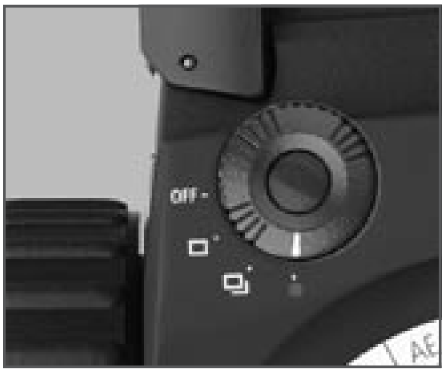
シングル撮影モード（□）

電源スイッチ [60] が□にセットされていると、**シャッターレリーズボタン** [22] を押すたびに撮影が行なわれます。



連続撮影モード（⧉）

電源スイッチ [60] が⧉にセットされていると、**シャッターレリーズボタン** [22] を押している間、連続して撮影を行ないます。
ロールフィルムを使う場合、フル充電のバッテリー、常温 (20℃)、シャッタースピード 1/250s 以上で、秒間約 2 コマの撮影が可能です。

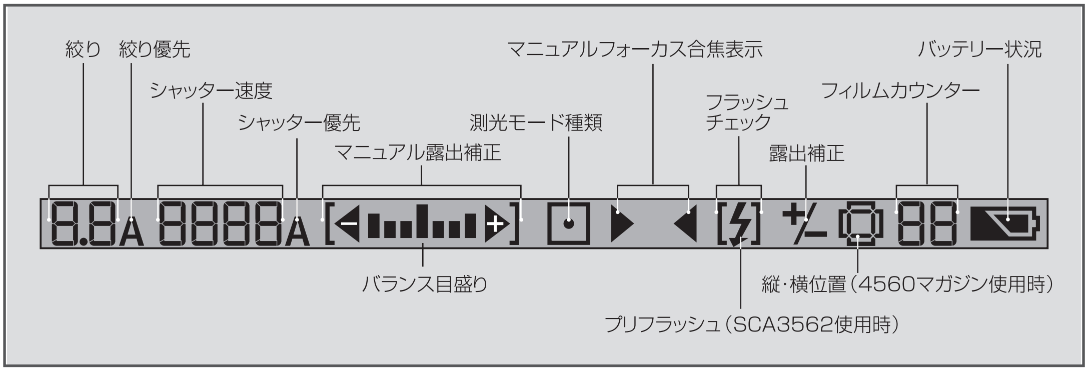


撮影モード／カスタム機能撮影（●）

電源スイッチ [60] を ● (赤点) にセットします。
撮影モードメニューボタン [61] を押したあと、次の撮影モードが、**シャッタースピードメニューダイヤル** [25] により選択可能です。

>> シングル撮影
>> 連続撮影
>> 露出ブラケット
>> セルフタイマー
>> フォーカスブラケット

ディスプレイ

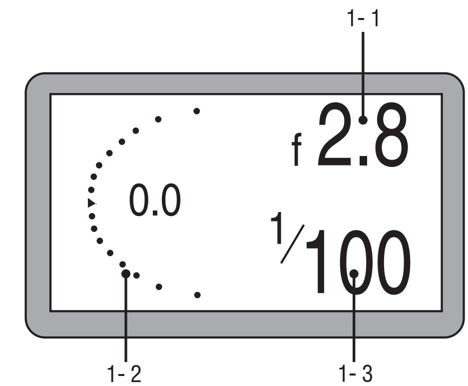


ファインダーディスプレイ [8]

ビューファインダー内のバックライト付き**ファインダーディスプレイ [8]** には、撮影とカメラに関するさまざまな情報が表示されます。
この表示はカスタム機能により消すこともできます。

重要な情報は

>> 露出モード
>> シャッタースピードと絞り
>> ライトバランスメーター
>> 測光パターン
>> フォーカスエイド
>> フラッシュ準備完了インディケーター
.>> バッテリー状態

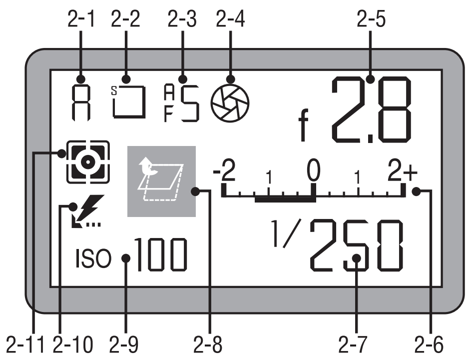


グリップディスプレイ [24]

電源スイッチ [60] を ON にした後、**シャッターレリーズボタン [22]** を軽く押すとすべての重要なデータが**グリップディスプレイ [24]** に表示されます。標準状態では、

1- 1　**絞り**
1- 2　**ライトバランス（露出オーバー／アンダー表示）**
1- 3　**シャッタースピード**

が表示されます。セレクタスイッチのどれかが赤色のマークにセットされると、グリップのディスプレイも変わり、上のようにさまざまな情報が表示されます。
表示されるのは次のデータです。



2-1　**露出モード**
2-2　**シングル、または連続撮影**
2-3　**AF モード**
2-4　**撮影絞り**
2-5　**絞り**
2-6　**露出補正**
2-6　**ライトメーター**
2-7　**シャッタースピード**
2-8　**ミラーロック**
2-9　**ISO 感度**
2-10　**フラッシュモード**
2-11　**測光パターン**

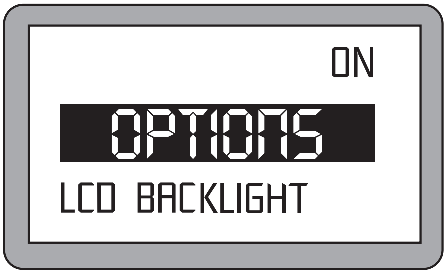
グリップディスプレイのオプション表示設定



カメラ基本設定ボタン [26] により、さまざまな初期設定を変更することができます。

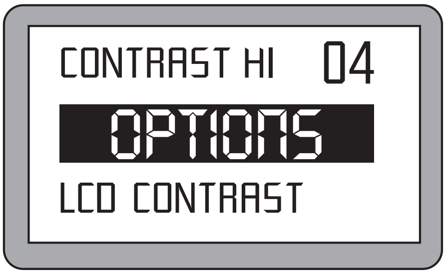
LCD バックライト　オート ON/OFF
LCD コントラスト　低 / 高
音響シグナル　ON/OFF
パワーセーブ　ON/OFF
AE 起動　レリーズボタン / マニュアル
GUI (GRAPHIC USER INTERFACE)　自動 / 強調

希望するオプションを設定するには、**絞り / メニューダイヤル [21]** と、**シャッタースピード / メニューダイヤル [25]** を使用します。



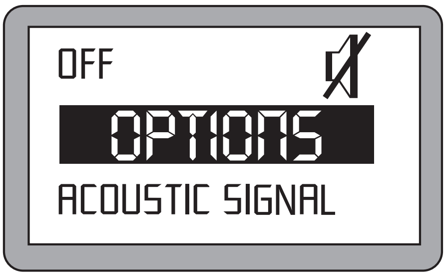
オプション／ LCD バックライト

このサブメニューにより、**ファインダーディスプレイ [8]** と **グリップディスプレイ [24]** のモードを三つから選択することができます。
ON = バックライト常時 ON
OFF = バックライト常時 OFF
AUTO = シャッターレリーズボタンを押すとバックライト ON。カメラ操作中は ON で、約 15 秒後に自動的に OFF。



オプション／ LCD コントラスト

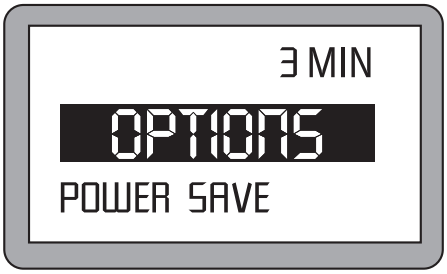
グリップディスプレイ [24] のコントラストを、**絞り / メニューダイヤル [21]** により設定することができます。
HI（高）は 00 ～ 16、LO（低）は 48 ～ 63 で設定可能です。



オプション／音響シグナル

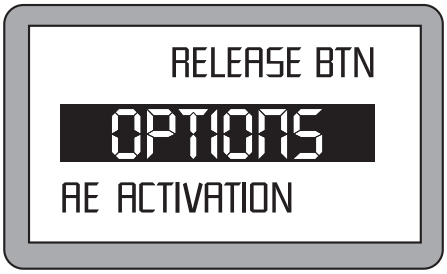
デジタルバックによっては、バックが準備完了になったことを知らせる音響シグナルを出すものがあります。
これを**絞り / メニューダイヤル [21]** で消音することができます。

グリップディスプレイのオプション表示設定



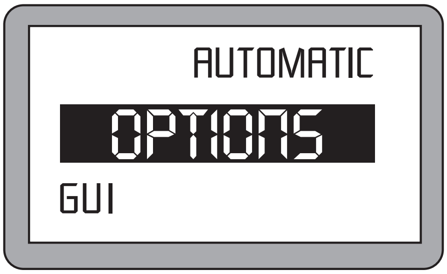
オプション／パワーセーブ

このメニューで、オートパワーオフのタイミングを任意に設定することができます。
3、5、10、20、30 分、1 時間、OFF の設定ができます。デフォルト設定は 3 分です。この設定時間経過後にカメラはスタンバイモードに入り、再び**シャッターレリーズボタン [22]** を軽く押すことで復旧します。OFF に設定すると**電源スイッチ [60]** を切らない限り電源は OFF になりません。
ご注意
OFF の設定ではバッテリーの消耗に注意してください。



オプション／ AE 起動

自動露出機能は、**絞り / メニューダイヤル [21]** で働かないようにすることができます。
この場合絞りとシャッタースピードは自由に選べます。
二つのディスプレイのライトバランスだけが露出の傾向を表示します。AF 機能は働きます。

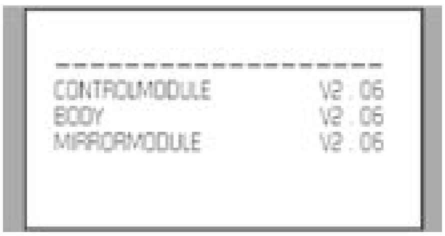


オプション／
GUI（グラフィックユーザーインターフェース）

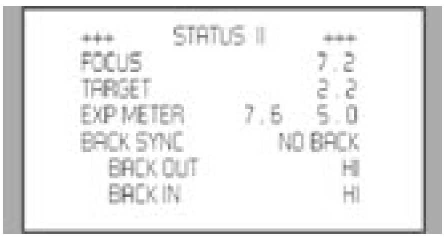
二つの選択肢があります。

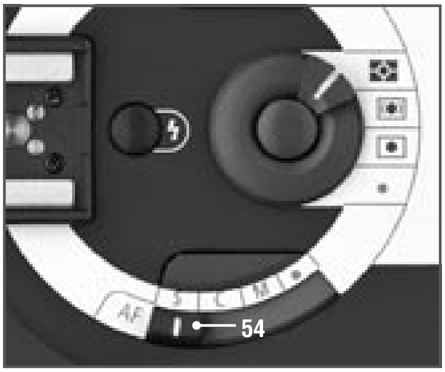
AUTOMATIC（デフォルト）と ENHANCED です。

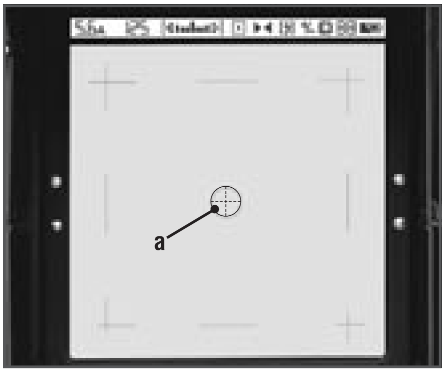
ENHANCED 設定では、ディスプレイは常時すべての撮影データを表示します。











フォーカシング

フォーカスモードスイッチ [54] により、オートフォーカスモード（S= シングルフォーカス、C= 連続フォーカス）のオプション、マニュアルフォーカス（M= フォーカスエイド）、そしてカスタムファンクション（●赤マーク =P45 参照）を選択することができます。

フォーカシングを行なうには、**シャッターレリーズボタン [22]** を軽く第一段階まで押します。強く押し込むとシャッターが切れます。望まない露出を行なわないようにするため、このシャッターの二段作動の感覚に、フィルムを装填しないで慣れていただくことをお薦めします。

ピント合わせは、カメラのオートフォーカスシステムのクロスセンサー（**a**）を使用します。

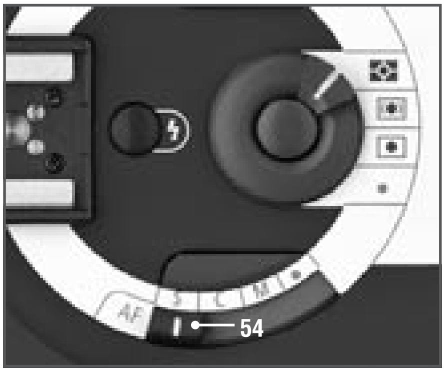
注意
フォーカシングの正確性を保持するため、ファインダースクリーン に余計な光が入らないようにしてください。

カメラを三脚に装着しての撮影では、ファインダーフードを閉じるか、プリズムファインダーの使用をおすすめします。ルーペを出した状態での使用は、フォーカシングスクリーンを焼く危険があると同時に余計な光を増幅する結果になります。

オートフォーカスモードでレンズのフォーカスリングを操作するのは、フォーカスエイドを使用しているのと同じことになります。カメラのフォーカスシステムを使用するには、シャッターボタンを軽く（第一段階まで）押す必要があります。

オートフォーカス及びフォーカスエイドが正しく作動するためには、レンズの実効絞りが f/5.6 より明るいことが必要です。特に、テレコンバーターや接写用アクセサリーを使用する場合は注意してください。

フォーカシング



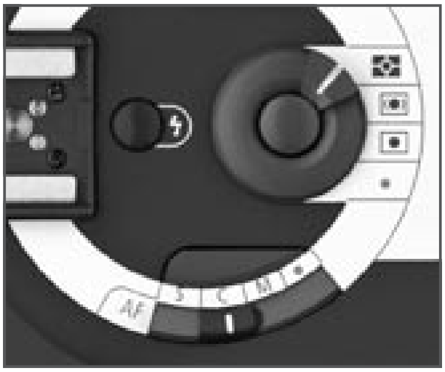
シングルフォーカス (S)

フォーカスモードメニュースイッチ [54] を "S" にセットします。ファインダー中央部のクロスセンサーシンボル（**a**）を被写体のピントを合わせたい部分に位置させ、**シャッターレリーズボタン [22]** を軽く第一段階まで押します。

AF レンズは自動的にフォーカスします。フォーカスをやり直すにはシャッターボタンを一度戻し、もう一度軽く押します。フォーカスが合った時、フォーカスエイドの二つの矢印が両方とも点灯します。



フォーカスエイドの矢印が片方しか点灯しない場合は測距ができません。この場合は、同距離にある、より高いコントラストを持つ被写体でフォーカシングを行ない、その後フレーミングを修正してください。



連続フォーカス (C)

フォーカスモードメニュースイッチ [54] を "C" にセットします。

シングルフォーカスモードと異なり、**シャッターレリーズボタン [22]** が第一段階まで押されている間は AF 機能が作動を続けます。従って被写体がフォーカスエリアを外れると直ちにフォーカスをやり直します。

このモードでは、シャッター優先で、フォーカスの如何にかかわらずシャッターが切れます。その他の点においてはシングルフォーカスモードと同じです。



マニュアルフォーカシング (M)

フォーカスモードメニュースイッチ [54] を "M" にセットし、レンズの**フォーカスリング [11]** を回してフォーカスします。フォーカスの確認はファインダースクリーン、またはフォーカスエイドで行ないます。
フォーカスエリアを、被写体のフォーカスしたい部分に合わせ、フォーカスリングをフォーカスエイドの矢印が両方同時に点灯するように回転します。矢印の向きで、リングをどちらに回転させるかが判ります。
下の表をご覧ください。

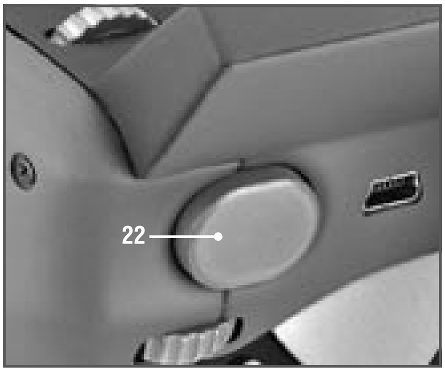


ディスプレイ表示	フォーカス面
▶　◁	被写体より後
▷　◀	被写体より前
▶　◀	被写体合焦

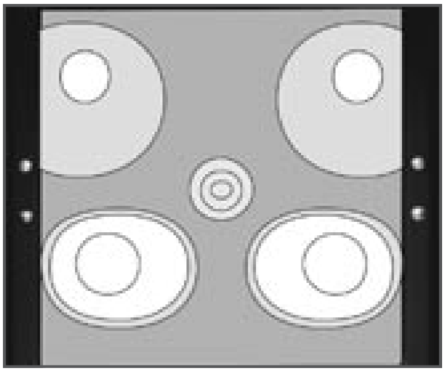
すべての Rolleiflex 6008 PQ/PQS レンズはマニュアルフォーカスで使用できます。
フォーカスエイドの二つの矢印が同時に点灯しない時はマニュアルフォーカシングができません。この場合は、同距離にある、より高いコントラストを持つ被写体でフォーカシングを行なってください。

注意
180mm より長い焦点距離をもつ交換レンズの場合、事前にある程度のピント合わせを行なう必要があります。

露出モード



カメラの**電源スイッチ [60]** を ON にして、**シャッターレリーズボタン [22]** で露出モードの設定を行います。

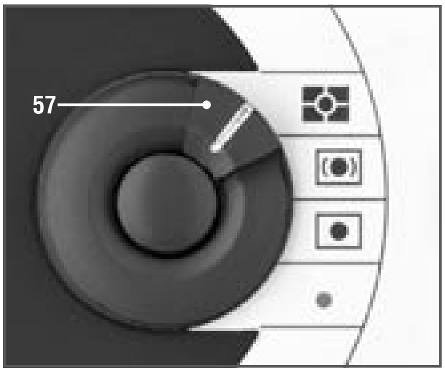


マルチゾーン平均測光 ----- [ ]

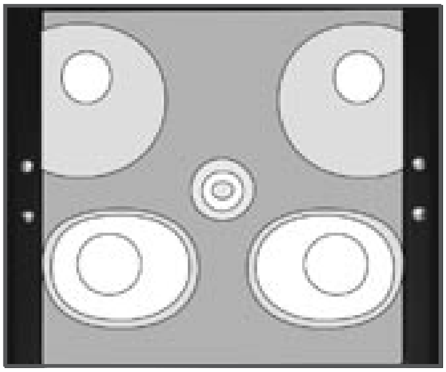
反射ミラーの裏側に設置された 7 個のシリコンフォトダイオードが入ってくる光を測定します。これらの素子は 5 つのグループに分けられて複数のゾーンをバランスよく測定し、ほとんどの場合に良好な結果が得られます。

画面中央の外側では、画面下側を、その反対側（例えば風景では空）より重点的に評価します。

左図を参照してください。



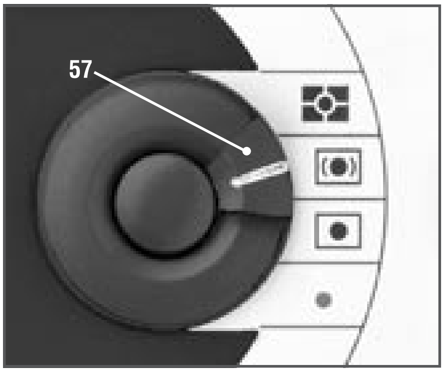
この測光パターンを使用するには**測光パターンセレクタダイヤル [57]** を に合わせてください。
これに対応するシンボルがディスプレイに表示されます。

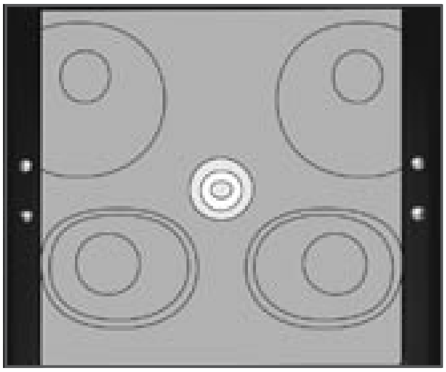


中央部重点マルチゾーン測光 ----- [(●)]

すべての 7 個の測光素子を使用します。
センサー感度の 50% は画面の中央部を測ります。
それ以外の部分が残りの 50% を測ります。
この測光パターンは、中央部の限定した被写体を重要視する場合に適します。

測光パターンセレクタダイヤル [57] を (●) に合わせます。

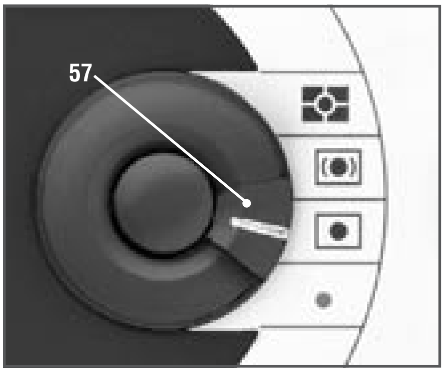




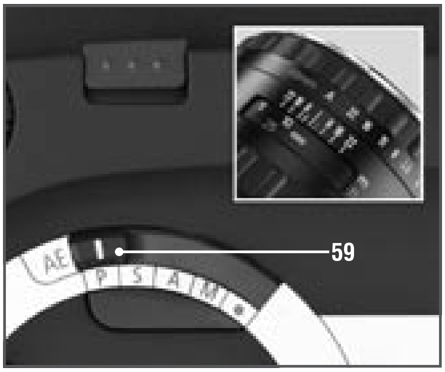
スポット測光 ----- [●]

コントラストが強い被写体の一部を測光したり、逆光時の被写体を正確に測光したりすることができます。
中央のセンサーのみを使用し、測光エリアは 6x6 全体の 1% 以下です。
中央の 5mm 径の部分で 100% を測定します。このパターンの使用にはある程度の熟練が必要です。

測光パターンセレクタダイヤル [57] を ● に合わせます。
これに対応するシンボルがディスプレイに表示されます。

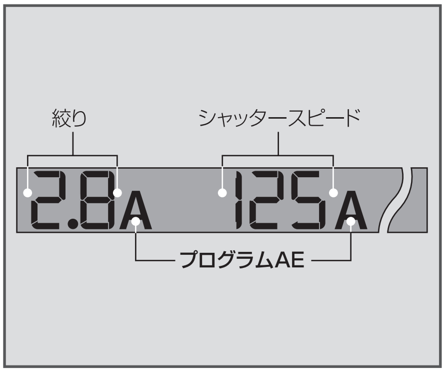


露出モード



プログラム AE ----- [P]

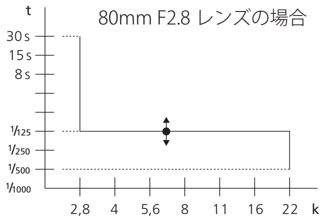
AFレンズのシャッター優先および絞りリング [15] を"A"にセットし（AFDレンズにはありません）、**露光モードセレクタスイッチ [59]** を"P"に合わせます。
ファインダーディスプレイ [8] の絞りとシャッタースピード表示の隣に"A"が表示されます。
カメラは、照明の条件に応じて適切な絞りとシャッタースピードの組み合わせを選びます。
デフォルトでは、カメラぶれを防ぐために早いシャッタースピードに寄った設定になっています。同じくデフォルトではシャッタースピード優先を1/125sとしています。

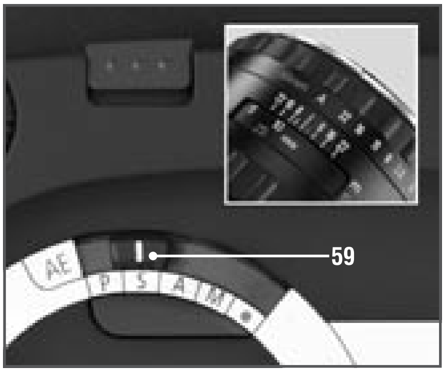


ファインダーディスプレイ [8] 表示

プログラムカーブ

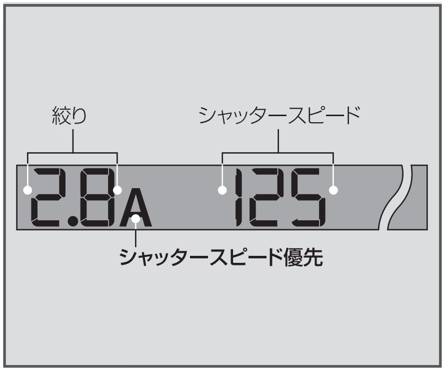
照明条件が絞りまたはシャッタースピードの範囲を超えた場合、それに対応したディスプレイが点滅し、さらにライトバランスが標準露出からの差を1/3ステップで±1EVまで表示します。
±1EV以上ではライトバランスも点滅します。



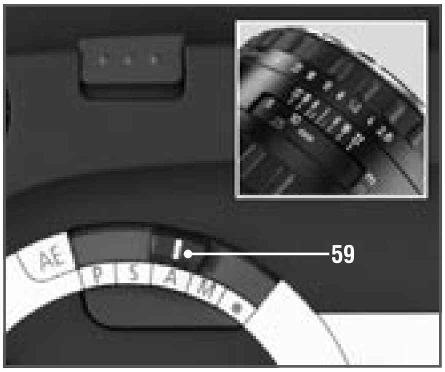


シャッタースピード優先 AE ----- [S]

露光モードセレクタスイッチ [59] を "S" に合わせます。
シャッタースピード / メニューダイヤル [25] を回転してシャッタースピードを 1/3 ステップで設定します。
絞りリング [15] は "A" にセットします（AFD レンズにはありません）。
ファインダーディスプレイ [8] の絞り表示の隣に "A" が表示されます。
照明条件とシャッタースピードの設定で絞りの範囲を超えた場合、絞りのディスプレイが点滅し、さらにライトバランスが標準露出からの差を 1/3 ステップで± 1EV まで表示します。
± 1EV 以上ではライトバランスも点滅します。



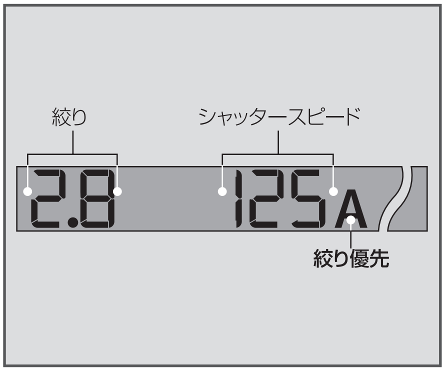
ファインダーディスプレイ [8] 表示



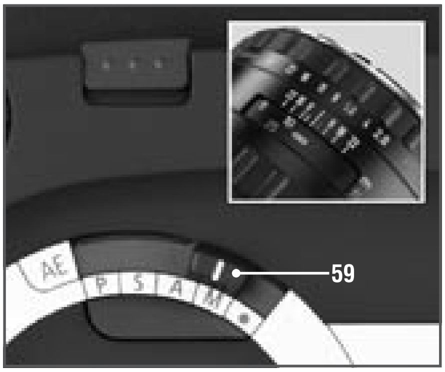
絞り優先 AE ----- [A]

露光モードセレクタスイッチ [59] を "A" に合わせます。**シャッタースピード / メニューダイヤル [25]** を回転してシャッタースピードを 1/3 ステップで設定します。
AF レンズの**絞りリング解除ボタン [35]** を押して、**絞りリング [15]** を希望の絞りにセットします（AFD レンズにはありません）。
ファインダーディスプレイ [8] のシャッタースピード表示の隣に "A" が表示されます。

照明条件と絞りの設定でシャッタースピードの範囲を超えた場合、シャッタースピードのディスプレイが点滅し、さらにライトバランスが標準露出からの差を 1/3 ステップで ± 1EV まで表示します。
± 1EV 以上ではライトバランスも点滅します。

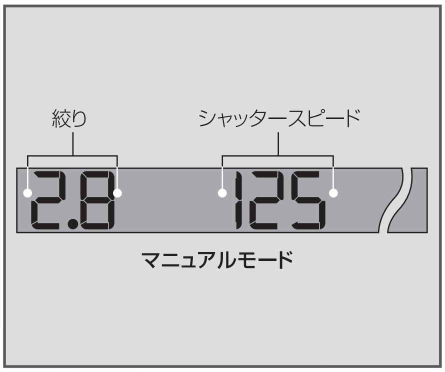


ファインダーディスプレイ [8] 表示



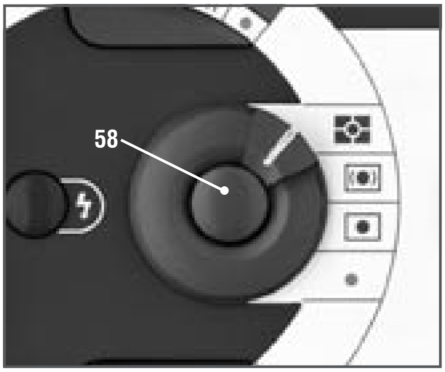
マニュアル -----［M］

このモードでは、絞りとシャッタースピードの組み合わせは自由です。
露光モードセレクタスイッチ [59] を "M" に合わせます。**絞りリング [15]** と**シャッタースピード / メニューダイヤル [25]** を使ってシャッタースピードと絞り（AF レンズ）を設定します。
露出インディケーターを**ファインダーディスプレイ [8]** のライトバランスの中央のマークに合わせます。
標準露出からの差を 1/3EV で表示します。それ以上ではライトバランスも点滅します。
AFD レンズで絞りとシャッタースピードを設定するのはそれぞれ、**絞り / メニューダイヤル [21]** と**ダイヤル [25]** によって可能です。



ファインダーディスプレイ [8] 表示

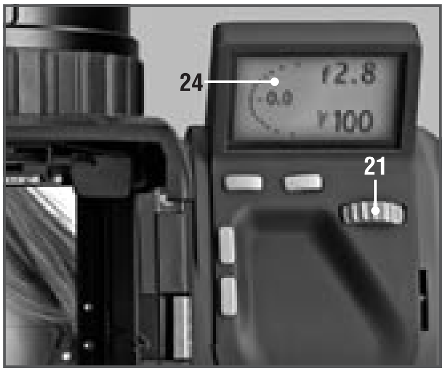
露出補正の設定



露出補正の設定

露光モードメニューボタン [58] を押しながら、**絞り / メニューダイヤル** [21] を使って± 5EV の範囲で希望する値を設定します。
ファインダーディスプレイ [8] と**グリップディスプレイ** [24] 内に "+/-" が表示されます。

ご注意
カメラは自動露出モードに設定されている必要があります。



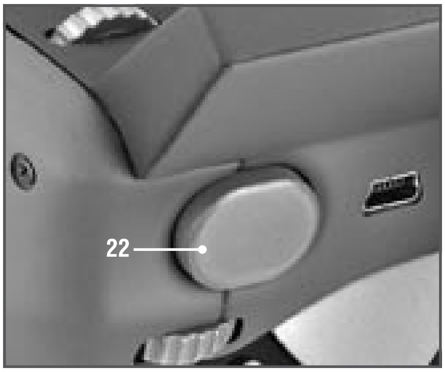


被写界深度の確認

被写界深度を確認するときは、**絞り込みボタン** [29] を押します。
マグニファイヤーを通してスクリーン上で被写界深度を確認します。

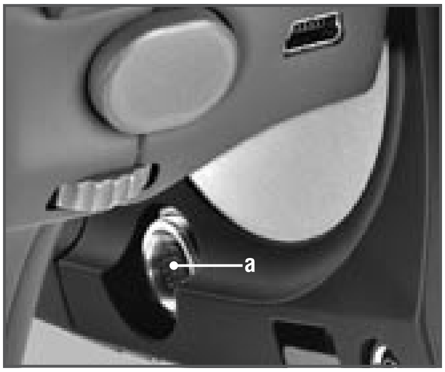
迷走光補正

フォーカシングフードから入ってくる迷走光は測光時に考慮され、迷走光と測定光の比が約 16:1 くらいまでは補正されます。この補正はファインダーの種類によって異なります。
マグニファイヤーを使用せずにフォーカシングフードでピントガラスを見る場合は、測光中ピントガラスに直接の光（光源からの直接光、蛍光灯を含む）が入らないようにしてください。
タイム露光時には必ずフードを閉じてください。



シャッターレリーズ

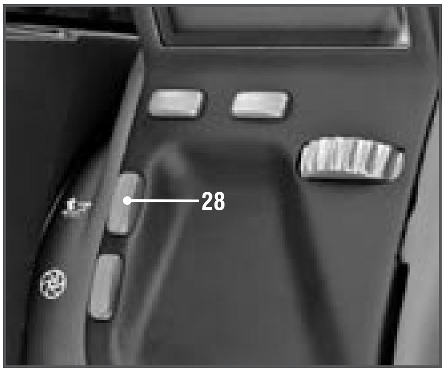
シャッターレリーズボタン [22] を軽く押すとファインダーとグリップディスプレイが起動します。
シャッターレリーズは 2 段階です。第 1 段階でオートフォーカスと測光が行われ、第 2 段階でシャッターが切れます。



RC-120 リモートレリーズを使う場合

別売のリモートレリーズ RC-120 を使う場合はコネクタ [a] にリモートレリーズを接続して「Start（開始）」ボタンを押します。シャッターを切るとカメラは撮影を行います。

ご注意
ケーブルレリーズあるいはリモートレリーズを使用する場合は連続 AF モードでのオートフォーカスは使用できません。



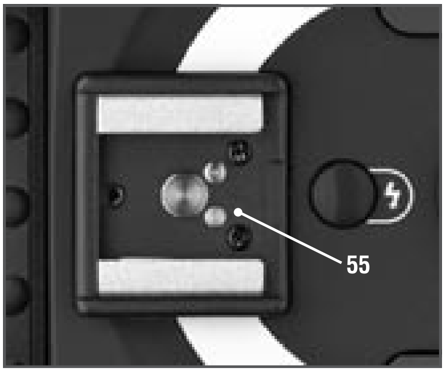
ミラーロックアップ

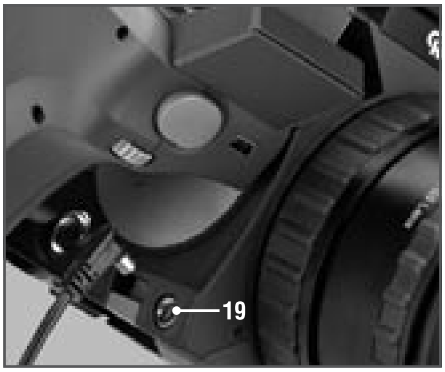
望遠レンズやクローズアップレンズを使う場合など、カメラブレを最小限に防ぐために、露出を決定した後に**ミラーアップボタン [28]** を押してミラーアップさせます。
次に**シャッターレリーズボタン [22]** を押して撮影します。

ミラーアップモードでは測光値は約 4 分間記憶されています（この間ファインダーには露出が表示されていますが、絞りが作動中には決して絞り値を変更しないで下さい）。

ミラーアップしてから 4 分以内に撮影して下さい。それ以上経ちますと、記憶された測光値がキャンセルされてしまいます。もしミラーアップした後で撮影を中止したい場合、再度**ミラーアップボタン [28]** を押して下さい。
これでミラーは戻り、フィルム送りをしないので無駄な露光は必要ありません。

フラッシュ撮影





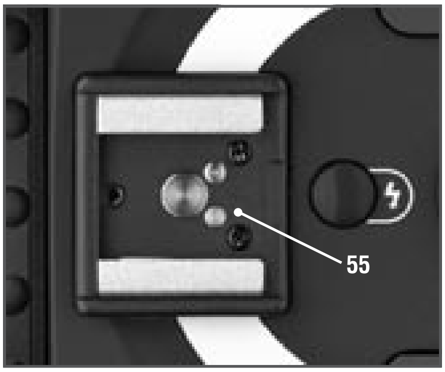
Rolleiflex Hy6 は 1/1000 秒（PQ レンズ／ EL レンズ使用の場合は 1/500 秒）までのすべてのシャッタースピードに対し、ストロボが同調します。
フラッシュユニットは**フラッシュ用ホットシュー [55]** 、または**シンクロターミナル [19]** に接続して使用します。この 2 つのシンクロ接点は並列に接続されています。以下のフラッシュモードが使用できます。

1. マニュアルフラッシュモード：
被写体との距離に応じて絞りを設定した場合

2. 専用オートフラッシュモード（TTL 調光）：
別売のフラッシュアダプター「SCA-3562」、「SCA-356」およびメッツ社（Metz）製などフラッシュユニットを使用した場合

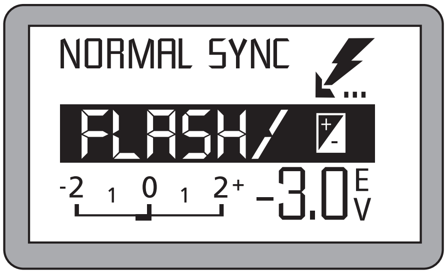
3.TTL フラッシュ測光モード：
スタジオ用フラッシュユニット、マニュアルフラッシュを使用した場合
TTL フラッシュセンサーはマルチゾーン測光機能で測光を行います。

ご注意
スタジオ用のストロボは、コンパクトタイプやグリップタイプのストロボと比較してレスポンスが遅く、フラッシュの持続時間も長いのが普通です。
1/250 秒より高速のシャッタースピードではフラッシュの時間が遅れてシャッターの開いているタイミングを越えることがあります。フラッシュの取扱い説明書をよくお読みください。



前シンクロ／後シンクロの設定とシンクロスピード

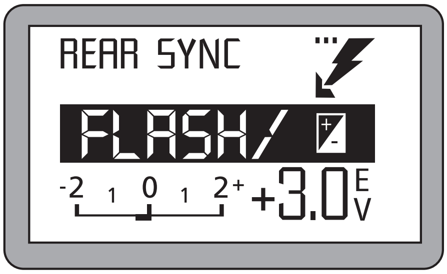
レンズシャッターを採用しているので、すべてのシャッタースピードにおいてフラッシュが使用できます。
1/250 秒より早いシャッタースピードでは、前フラッシュ／後フラッシュの差はありません。
フラッシュ用ホットシュー [55] 横の ⚡ボタンを押し続けると**グリップディスプレイ [24]** に「Flash」が表示されます。
これにより**絞り / メニューダイヤル [21]** でフラッシュシンクロのタイプを設定することができます。



●標準（前）シンクロ

フラッシュはシャッターが開いた直後、露光の最初に発光します。

追加の露出補正はシャッタースピード / メニューダイヤル [25] を使用して -3 から +3EV の範囲で 1/3EV ステップで行えます。



●後シンクロ

フラッシュはシャッターが閉じる 3ms 前、露光の最後に発光します。



SCA アダプターを使わない
マニュアルフラッシュ撮影

フラッシュを**フラッシュ用ホットシュー [55]** 、または**シンクロターミナル [19]** に接続します。この場合、カメラはフラッシュを認識せず、フラッシュが接続されていない時と同じ動作をします。
フラッシュが要求する絞りの値をレンズに設定してください。

コンピュータ制御フラッシュはセンサーを内蔵しており、フラッシュに設定した絞り値によって自動的に出力を制御します。
この場合同じ絞り値をカメラにもセットします。シンプルなフラッシュは撮影距離に応じてテーブルを参照して絞り値を変える必要があります。
フラッシュ付属の説明書を参照してください。

フラッシュ撮影

■ Rollei SCA-3562（または SCA-356）専用フラッシュアダプターを使うフラッシュ撮影

専用のフラッシュユニットと Rollei SCA-3562（または SCA-356）専用フラッシュアダプターを併用すると、カメラの TTL フラッシュ測光機能が使えます。
カメラ内蔵のセンサーがフィルム面の反射光を測定し、フィルム感度、環境光を考慮してフラッシュの出力を制御します。結果として、ISO25 から ISO1600 の範囲において、最適な露出を得ることができます。



SCA-3562アダプターは次のデータをカメラとフラッシュの間で伝達することができます。

●ズームリフレクタコントロールのための、AFレンズの焦点距離（技術的理由により、焦点距離は35mmカメラ相当に変換して表示）
●センサーオートフラッシュのためのレンズ絞りとフィルム感度
●対応フラッシュユニットでのフラッシュ露光補正
● AFプリフラッシュコントロール



正しいフラッシュ露光を行なうため、SCA-356 フラッシュアダプターは常にISO 100に設定しておきます。フラッシュが出力不足の場合、カメラのファインダーディスプレイに"Lo"が数秒間表示されます。ファインダー内、シャッターレリーズのすぐ後にあるフラッシュアイコンが点滅している時はフラッシュが充電中です。点滅が止まったら発光可能です。
ご注意
SCA-356アダプター使用の場合、フラッシュが十分な光量で発光したか確認することはできません。TTLフラッシュ測光のフィルム感度上限(ISO1600)を越えた場合、フラッシュアイコンとフィルム感度表示が警告のために点滅します。

■低照度で SCA アダプターを使ったオートフラッシュ

暗すぎる場合は、より大きなフラッシュ絞り値あるいは基本シンクロスピードより遅いシャッターが、正しい露出のために要求されます。もし十分な光がある場合は、システムは "SCA アダプターでのオートフィルフラッシュ " で説明されているように反応します。

■ SCA アダプターでのオートフィルフラッシュ

光量が十分でフラッシュの必要がない場合、フラッシュは発光せず、これはフラッシュアイコンが表示されないことで確認されます。フィルインフラッシュとして使いたい場合、次に述べる方法の一つを使用します。（フラッシュの使用説明書も参照してください。）

■絞り優先 AE でのフラッシュ撮影

環境光が暗く、設定された絞りと基本シンクロスピードである 1/60 秒で露出不足となる場合は、カメラは自動的にフラッシュを作動させて露出不足を防ぎます。

ご注意

フラッシュ露出はフラッシュユニットのその時々のレスポンスの影響を受けるため、浅い絞り値は距離が遠い場合のみに使用するようにしてください。

■プログラム AE でのフラッシュ撮影

光量が低く、基本シンクロスピードである 1/60 秒（デフォルト）でフラッシュ絞り値（下記の表参照）を越えてしまう場合には、カメラは自動的にフラッシュを作動させて露出不足を防ぎます。

■シャッター優先 AE でのフラッシュ撮影

希望するシャッタースピードを選択します。光量が低い場合（下記の表参照）は、カメラはまず使える絞りの範囲で適正露出を試みます。

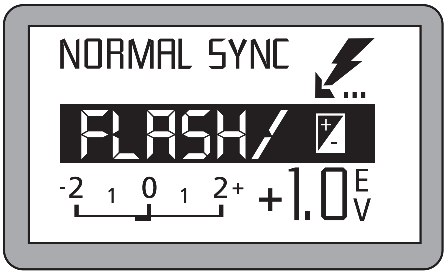
適正露出のためにさらに追加の光が必要な場合、フラッシュを使用します。絞り値はフィルム感度との関連で決まり、下の表の値からスタートします。

下の表の値で不十分な場合、ディスプレイが点滅して警告します。

ISO 感度	25	50	100	200	400	800	1600
絞り	f2.8	f3.5	f4.0	f5.0	f5.6	f7.1	f8

フラッシュ撮影

■追加フィルフラッシュ



このフィルフラッシュモードを使用するには、**シャッタースピード / メニューダイヤル [25]** で露出補正を「+]EV に設定します。この補正値は環境光での露出には影響しません。フラッシュでの追加の露光が補正値分だけ被写体を明るくします。

< 例 >

+1 に設定する。被写体の周囲は自然に描写され、メインの被写体が 1EV 分明るく描写される。

このフィルフラッシュモードは、背景に影響を与えず、全景だけを明るく表現したい場合に有効です。（アウトドアなど）

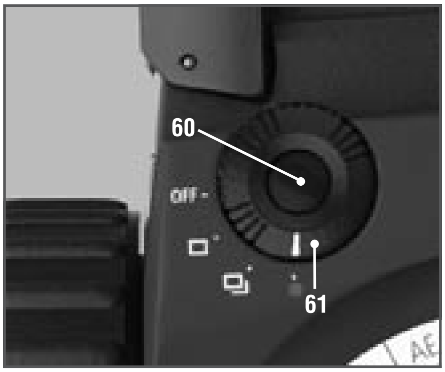
■マニュアルフラッシュ制御

三つの自動露出モードのどれも選択していない場合、露出は環境光とフラッシュ出力がそれぞれ独自に決定されます。

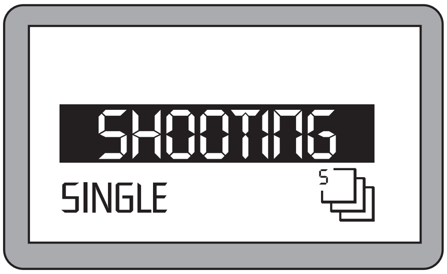
環境光のみによる露光は "マニュアル露出" (P31 参照) に解説されているように行なわれます。フラッシュ出力は TTL測光により制御されます。露出補正が行なわれない場合、このケースでは被写体は 1EV明るく描写されます。

環境光による露光を変えるには絞り、あるいはシャッタースピードの設定を変更します。露出補正のないフラッシュでは、フラッシュ出力は露出補正スイッチの設定で変えることができ、この設定は TTLフラッシュ測光のみに影響します。

フラッシュ露光補正を備えたフラッシュの場合はそれに内蔵された露出補正スイッチによってフラッシュ出力を変えます。この時はカメラ側の露出補正は環境光のみに影響します。



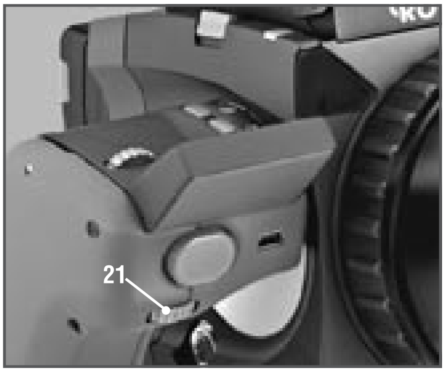
電源スイッチ[60] を赤の印に合わせて**シャッターレリーズボタン[22]** を半押しします。
ファインダーと**グリップディスプレイ[24]** がONになります。
撮影モードメニューボタン[61] を押すとグリップディスプレイに撮影モードが表示されます。
シャッタースピード/メニューダイヤル[25] を回すと次のメニューが表示されます。



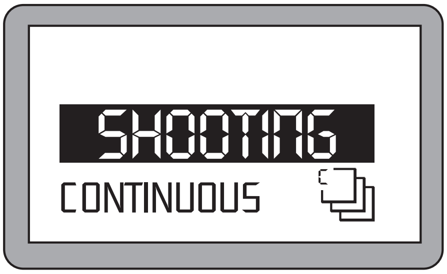
シングルショット
シャッターレリーズボタン [22] を押すたびに 1 コマの撮影が行なわれます。次のコマを撮影するには一旦ボタンを離し、再度押します。

ご注意
撮影モードメニューボタン [61]　を離すと設定が保存されます。

カスタムファンクション / 撮影モード

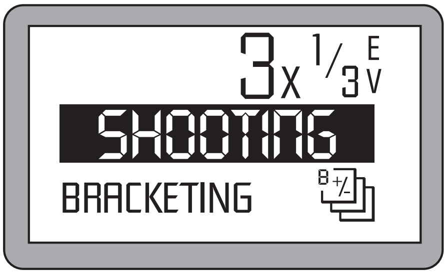


ブラケッティングやセルフタイマーサブメニューを設定するには、**絞り / メニューダイヤル [21]** を使用します。



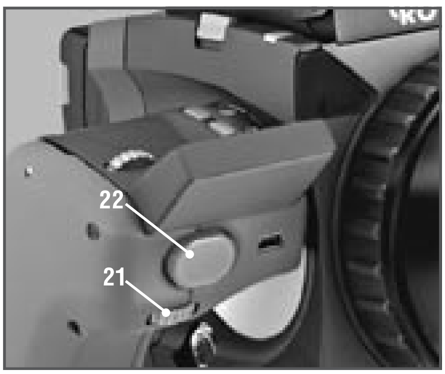
連続ショット

このモードでは、**シャッターレリーズボタン [22]** が押されている間連続撮影を行ないます。フィルムマガジン使用時の最高撮影速度は常温 (20℃)、満充電時、1/250 秒以上のシャッタースピードで約 2 コマ／秒です。



オートブラケッティング

ブラケッティング機能は AE モードでもマニュアルモードでも使用できる特別な機能です。この機能は適正露出の撮影と、それより露出をオーバーあるいはアンダーにしたコマを自動的に撮影するものです。
この設定を選択するには、**絞り / メニューダイヤル [21]** を使用します。
設定されたコマ数の撮影が完了するまで、**シャッターレリーズボタン [22]** を押し続けてください。
途中で離すとそこで連続撮影がストップします。



3 段階　-1/3、0、+1/3
3 段階　-2/3、0、+2/3
3 段階　-1、0、+1
5 段階　-2/3、-1/3、0、+1/3、+2/3
5 段階　-4/3、-2/3、0、+2/3、+4/3
5 段階　-2、-1、0、+1、+2

ご注意
シャッタースピードや絞りの値が限界を超える設定の場合、それぞれの +/- シンボルが点滅して警告します。



セルフタイマーを使う

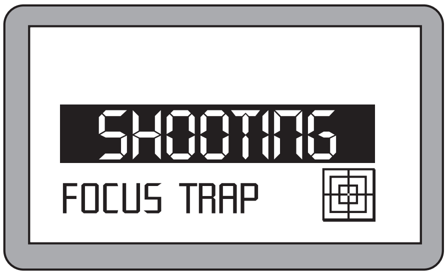
セルフタイマーをスタートするには**シャッターレリーズボタン [22]** を押します。
遅延の値は**グリップディスプレイ [24]** に表示されます。**絞り / メニューダイヤル [21]** で次の値が選択できます。

1/4、1/2、1、2、4、8、16、32、64、128 秒



フォーカスブラケッティング（AF レンズのみ）

3 段階、5 段階、7 段階、9 段階の選択が可能です。
5 段階の撮影を選択した場合、1 つは AF により決定されたもの、さらに 1 および 2 フォーカスステップの前後のフォーカスで撮影を行います。カメラは露出ごとに自動的にフォーカスを調整します。
これを行う時はミラーはロックアップされます。



フォカーストラップ（待ち受け）

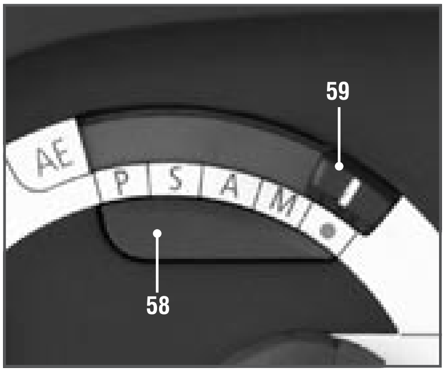
このモードはマニュアルフォーカスのみで使用可能です。
フォーカスモードメニュースイッチ[54]を赤の印に合わせます。
露光モードメニューボタン[58] を押しながら、**シャッタースピード/メニューダイヤル[25]** で マニュアルモードを選択します。
次に**撮影モードメニューボタン[61]** を押して**ダイヤル[25]** "Foucus Trap"を選択し、フォーカスを合わせ、**シャッターレリーズボタン[22]** を押し込みます。AFモードSおよびCはこのモードでは選べません。
スポーツやファッションなどで画面内のあるポイントや被写体をシャープに描写したい場合、カメラを三脚に固定し、そのポイントに焦点を合わせます。スポーツ選手やモデルがそのポイントを通過した時に、カメラは自動的にシャッターを切ります。このモードではAFロックはシャッターレリーズに依存しません。



ウルトラファスト（即時レリーズ）/ ※デジタルバック装着時のみ設定可能

撮影の状況によってシャッターのタイムラグを最小限に抑えたい場合があります。
例えばカメラを固定してフォトセンサーなどの感知によりシャッターを切りたい場合などです。このために、ミラーロックと露出決定を事前に行います。
ウルトラファストモードを選択するには**撮影モードメニューボタン[61]** を押しながら**シャッタースピード/メニューダイヤル[25]** で"Ultra Fast"をディスプレイ上で選択します。これにより測光が行われてメモリーに記憶、さらにミラーがロックアップされます。
この場合、シャッタータイムラグはわずか3～4ms、PQSレンズ使用の場合はさらに短く、わずか約2msとなります。

カスタムファンクション / 露光モード



露出モードセレクタスイッチ [59] を赤の●印に合わせて、**電源スイッチ [60]** でカメラの電源を入れ、シャッターレリーズを半押しします。
これでファインダーと**グリップディスプレイ [24]** が起動します。

露光モードメニューボタン [58] を押すと、" EXPOSURE " の表示が**グリップディスプレイ [24]** に表示されます。



露光モードメニューボタン [58] を押しながら**シャッタースピード / メニューダイヤル [25]** を時計方向に回して以下のメニューにアクセスします。



マニュアルモード

このモードは絞りとシャッタースピードを任意に設定することができます。
カメラの**ファインダーディスプレイ [8]** 上のライトバランスがカメラが測定した値との差を表示しますので、どのくらいズレているかを、知ることができます。
グリップディスプレイ [24] には左図のように表示されます。



絞り優先 AE

このモードでは被写界深度を重要視する撮影、例えば絞り込んで深い深度を得たい場合などに有効です。
グリップディスプレイ [24] には左図のように表示されます。



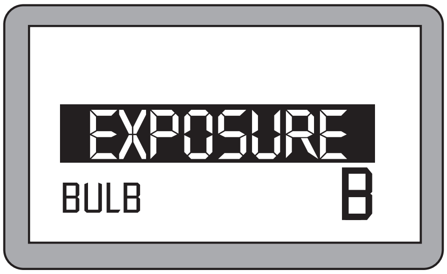
シャッタースピード優先 AE

動きのあるものの撮影に効果的です。
速いシャッタースピードを使って被写体の動きを止めてシャープに描写したい場合や、あるいは速いシャッタースピードを使って被写体の動きを表現したい場合などに使用します。
グリップディスプレイ [24] には左図のように表示されます。



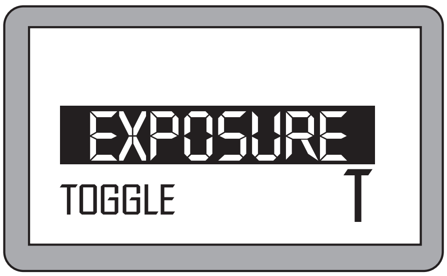
プログラム AE

カメラは自動的に適切なシャッタースピードと絞りの組み合わせを選択します。
デフォルトの設定ではカメラは高速シャッタースピード寄りのプログラムになっており、カメラぶれを最小限に抑えます。
デフォルト設定の基本シャッタースピードは 1/125 秒です。
グリップディスプレイ [24] には左図のように表示されます。



バルブ

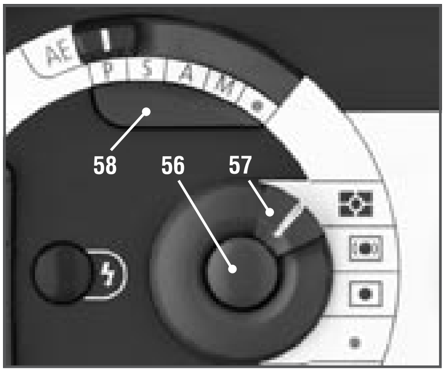
シャッターレリーズボタン [22] を押している間だけシャッターが開き、指を離せばシャッターは閉じます。
露出中、**グリップディスプレイ [24]** には左図のように表示されます。



タイム

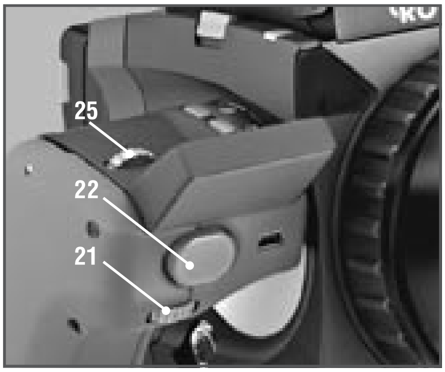
シャッターレリーズボタン [22] を 1 回押すとシャッターが開いたままになります。
さらにもう 1 度レリーズボタンを押せばシャッターは閉じます。これらのいずれのモードでも測光はできません。露出中、**グリップディスプレイ [24]** には左図のように表示されます。

カスタムファンクション / 測光パターン



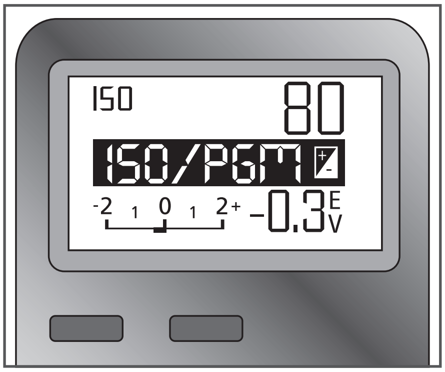
測光パターンセレクタダイヤル [57] を●（赤丸）に合わせます。
必要があれば**電源スイッチ [60]** でカメラを ON にし、**シャッターレリーズボタン [22]** を軽く押しします。
これでファインダーと**グリップディスプレイ [24]** が起動します。

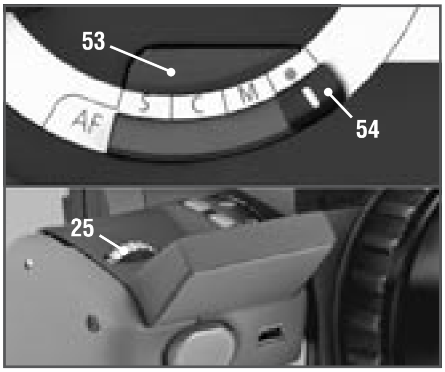
ISO および EV メニューボタン [56] を押しながら**シャッタースピード / メニューダイヤル [25]** を回すことで EV 値の補正を変更することができます。



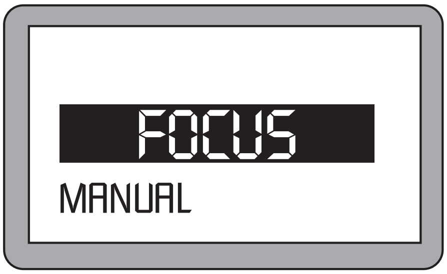
また、**ISO および EV メニューボタン [56]** を押しながら**絞り / メニューダイヤル [21]** を回すことで ISO 感度を 12-3200 の間で変更できます。4560 マガジンをご使用の場合、この ISO 感度設定は、マガジンの ISO 感度設定が自動的に反映されますので、カメラ側からの設定は必要ありません。

ご注意
ISO および EV メニューボタン [56] は常に有効で ISO 感度と EV 値の補正を撮影中いつでも行うことができます。



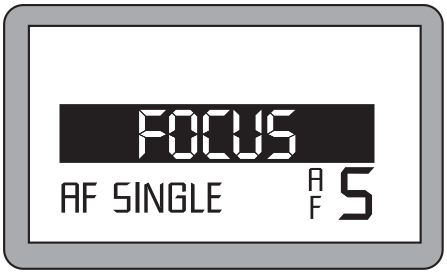


フォーカスモードメニュースイッチ [54] を赤印に合わせます。必要があれば**電源スイッチ [60]** でカメラを ON にし、**シャッターレリーズボタン [22]** を軽く押しします。
これでファインダーと**グリップディスプレイ [24]** が起動します。
フォーカスモードセレクタボタン [53] を押しながら**シャッタースピード / メニューダイヤル [25]** を回すと次のフォーカスモードにアクセスできます。



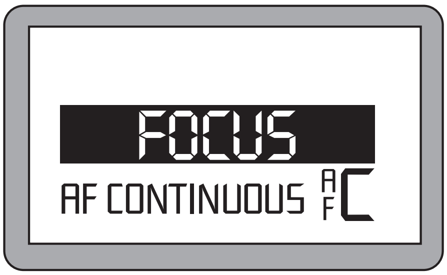
マニュアルフォーカス

手動でピント合わせをする方が適切と思われる特別な場合に使用します。



AF-SINGLE ／フォーカス優先

このモードではフォーカスが完了し、ファインダー内の矢印が向き合った状態にならないとシャッターが切れません。**シャッターレリーズボタン [22]** を軽く押してオートフォーカスを行い、その状態を続けるとフォーカスはロックされ、構図を変えても再度フォーカスは行われません。



AF-CONTINUOUS ／レリーズ優先

カメラはオートフォーカスを続けますので動いている被写体の撮影に有効です。
シャッターはいつでも切ることができますので、撮影のタイミングを逃しません。

撮影のヒント

低温下での撮影

-10℃以下の低温時にはバッテリーをカメラから外し、撮影の直前まで身につけて保温をすることをおすすめします。

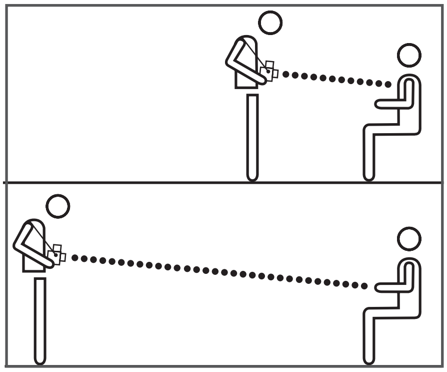
極端なライティング条件での撮影

カメラに備えられた自動露出測定および制御システムはすべての交換式ファインダー、フィルター、接写リング、リバースアダプター、ベローズ装置を使った場合もフルに機能します。
露出は常にレンズを通過して光で精密に測定されます。つまり、撮影の画角も、フィルターの係数と同じように考慮されて測定されるのです。カメラに備えられた三つの測光モードが、写真撮影する上で考えられるどんなライティング条件でも理想的に光を測定します。



スポット測光

強い逆光の場合や被写体の背景が明るい、もしくは暗い場合、スポット測光は選んだ被写体の一部分を測光します。標準スクリーンのスプリットイメージサークルが測光部分を表します。この部分は全画面の1%しかカバーしないので、極めて限定された画像に対して精密な測光を行うことができます。
被写体に関連する部分がこの画面中央部の外にある場合、AEロックによって測光値を保持し、フレーミングを変更してから撮影します。



クローズアップ測光

これも難しいライティング条件の場合に有効な方法です。被写体をクローズアップして露出を測定し、AEをロックします。
それから構図をやり直して撮影を行ないます。

標準反射板を使っての測光

標準反射板（グレーカード）を使用し、その使用説明書に従って露出の測定を行なう方法は、難しいライティング条件の場合におすすめできます。
これにより、中間調の最適な再現のために最良の平均値を得ることができるのです。

被写体のコントラスト

フィルムのグラデーションのカーブが急であればあるほど写真のコントラストは高くなります。
強すぎるコントラストを低減するには、フィルフラッシュを使う、より柔らかいライティングを行なう、異なったタイプのフィルムを使用する、現像条件で補正する、あるいは撮影のアングル、カメラ位置を変える、などの方法があります。
これらを行なってもコントラストを効果的に下げることができない場合、作画意図によってどこに最も重点をおくか、すなわちハイライト、シャドウ、中間調のどれを重視するかを決めることになります。マルチスポット測光はこのような条件の時に役立ちます。



●ベローズユニット

フォーカシングラック付、ラック＆ピニオン機構、クランピングネジ、繰り出し目盛り、三脚取付用ネジ穴1/4インチを装備しています。すべての自動レンズ機構にリンクできます。両面はバヨネットマウント、繰り出し量は67mmから204mmです。



●エクステンション・チューブ

エクステンション・チューブ9、17、34、67mmの４種類が用意されていて、すべて自動機構付きです。単体でも、ベローズユニットまたはレトロアダプターと組み合わせても使用可能です。



●バリアブルエクステンション・チューブ（22-68mm）

精巧なヘリコイド式のズームエクステンション・チューブですので28-68mmの範囲で自由に設定でき、クローズアップ撮影に最適です。主にツアイスの40-250mmレンズ用ですがレトロアダプターとの併用も可能です。



●レトロアダプター

このアダプターを使用すると、クローズアップ範囲が拡がります。より優れたクローズアップ撮影のために、50mm-120mmのレンズをリバースマウントする事ができますし、すべての自動レンズ機構にリンクできます。ベローズユニットを併用した場合、例えばリバースマウントの「プラナー 80mmF2.8」で撮影すると1.8倍から3.5倍のマクロ撮影が可能になります。

カメラのお手入れ

ローライフレックス Hy6 を長くご愛用いただくために、以下のお手入れをお薦めします。
カメラの清掃、保管は下記の方法に従って下さい。

カメラボディ外表面を掃除する時は、レンズクリーニング用ペーパーで拭います。
レンズとフォーカシングスクリーンの掃除には特に細心の注意が必要です。
共にブロワーを使用して、ホコリを取ります。（※キズが付かないように注意して行ってください）スクリーンの上面と下面とはザラザラしていますので、ブロワー以外のものは使わないで下さい。また汚れや指紋が付かないように注意して下さい。

●蒸気や湿気の多い状況下に、長くカメラを置かないようにして下さい。
●熱帯または亜熱帯地域の高湿度の状態に置くと、金属部分が錆びたり、ガラスに虫が付いたりします。
●できるだけ頻繁に新鮮な空気と日光にあてて、カメラを乾かすようにして下さい。
●フィルムガイドの表面は常に清潔に保って下さい。（フィルムから剥がれたゼラチンの粒子は虫にとって格好の温床となります）
●長期間カメラを使わない場合はバッテリーを外して、密封容器にシリカゲルと一緒に入れて保管して下さい。
●カメラに汚れが付かないように、特にご注意ください。

便利なアクセサリー

ローライフレックス Hy6 にはその機能を拡大するためのアクセサリーが用意されています。
これらは特殊な用途に必要なものや、使い方をさらに便利にするものなどが豊富に取り揃えられています。



●交換式レンズ

ローライフレックス Hy6 用の交換レンズ群は、クオリティの高い写真を撮影するためにカメラマンに余裕を与えてくれます。
すべてのレンズはローライ独自のダイレクトモータードライブ技術により作動します。レンズには絞りを駆動させるためと、シャッターを作動させるために 2 つのモーターを内蔵しています。シャッタースピードは正確でしかもタイムラグもなく , 最長 30 秒から最速 1/1000 秒まで可能です。
カメラとレンズの接点はカバーで守られています。また電気接点なので機械的に動く部分がなく、磨耗することもありません。



●テレコンバータ

焦点距離を 1.4 倍にするハイグレードな "AF テレコンバータ 1.4 × HFT" と、焦点距離を 2 倍にする標準レンズ、望遠レンズ、ズームレンズと幅広く使用できる " テレコンバータ 2 × HFT" の 2 種類を用意しています。
精密な光学機器によりレンズの性能をを損なわずに使用できます。



●交換式フィルムマガジン 6060/4560

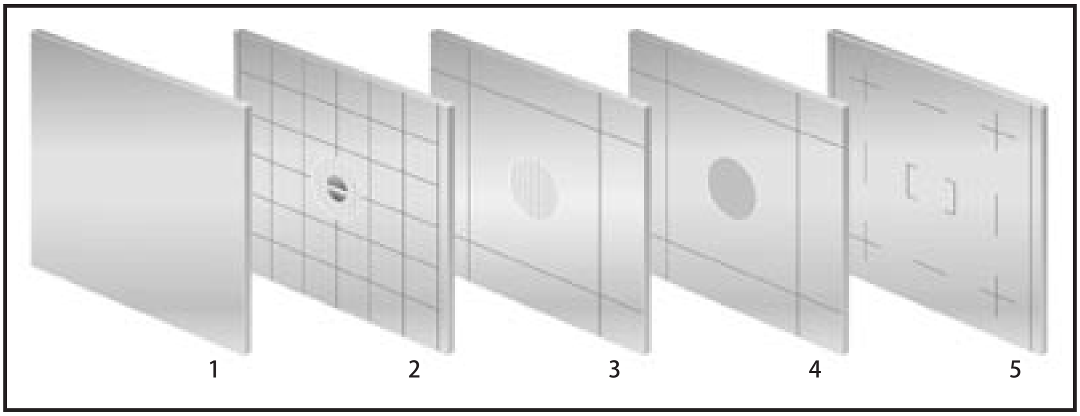
6 × 4.5cm 判のフィルムマガジン「4560 マガジン」および、6 × 6cm 判のフィルムマガジン「6060 マガジン」は一体型ラミネートスライドの採用で素早く、安全にフィルム交換が可能です。
さらに 4560 フィルムマガジンはカメラを動かさずにタテ位置・ヨコ位置をスムーズに差し換えることができます。

便利なアクセサリー



●蛇腹レンズフード / タイプ VI

逆光やサイドからの光など、不要な光の侵入を防止する、伸長蛇腹式レンズフードです。焦点距離 80mm と 120-250mm の指示目盛付き。120-250mm レンズ用のマスクも付いています。後ろポケットには、75 × 75mm のシートフィルターを入れることができます。



●フォーカシングスクリーン

あらゆる場面において明るく、正確なビューイングを得るために、
ローライフレックス Hy6 には 5 種類のフォーカシングスクリーンを用意しています。

1. マットスクリーン
正確なピント合わせのためのガラススクリーンです。特に接写やフォーカスエイドが邪魔なクリエイティブワークに適しています。

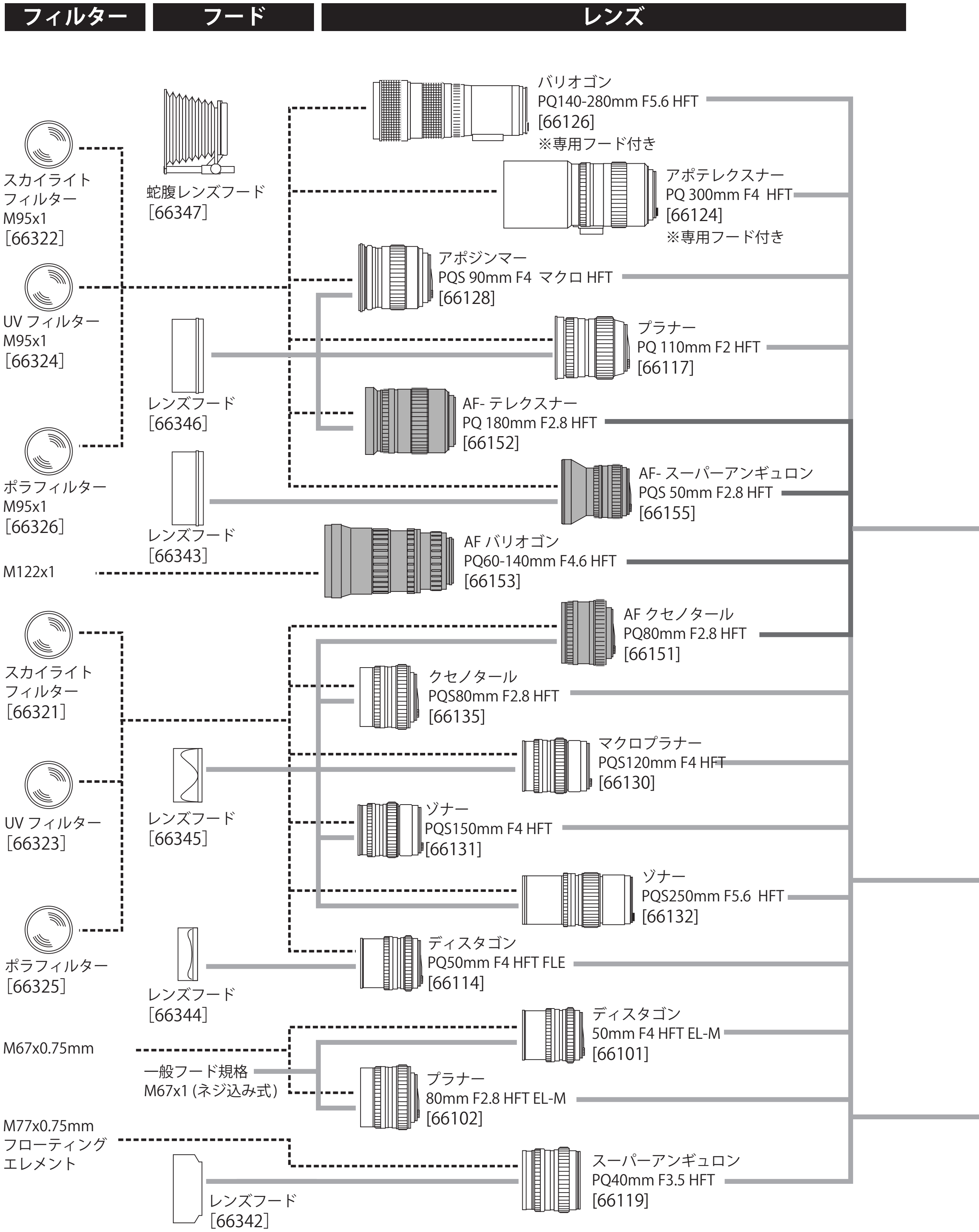
2. スタンダード・ブライトマットスクリーン
中央スプリットイメージ、マイクロプリズムリング付きの標準タイプのフォーカシングスクリーンです。スプリットイメージによって垂直線上のフォーカシングを正確に行うことができ、その周囲はマイクロプリズムとなっています。全体はマットスクリーンですので、画像エリア全体にわたってシャープなフォーカシングができます。

3. ブライトマットスクリーン
フルエリアのフォーカシングに適したマイクロファインフォーカシングスクリーンです。開放値が比較的暗いレンズに適しており、被写界深度のプレビューにも効果的です。

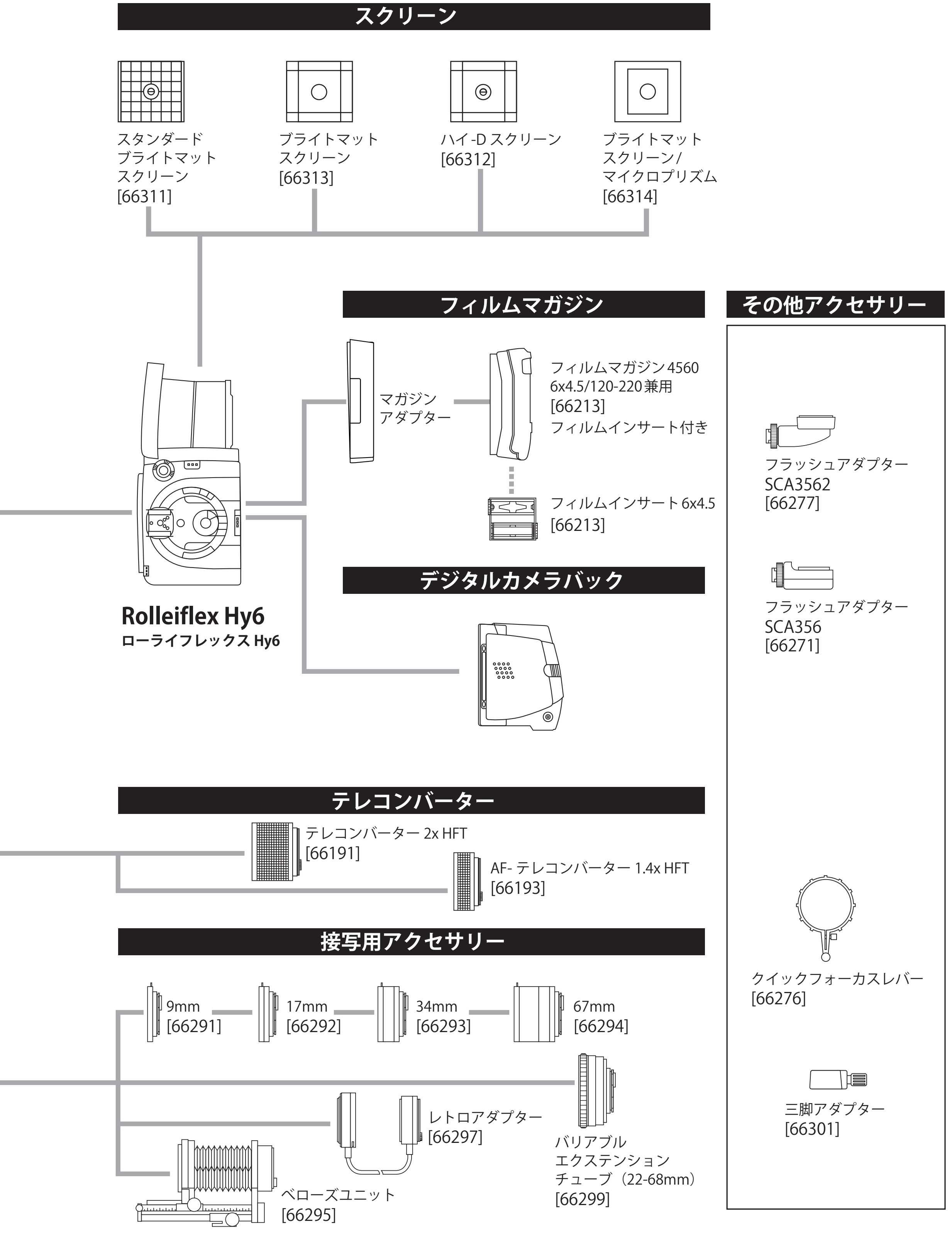
4. ブライトマットスクリーン / マイクロプリズム
素早く撮影を行うのに適したフォーカシングスクリーンです。画像ディティール全体にわたってちらつきをなくすので、光量不足でも正確なフォーカシングができます。

5.AF ハイ -D スクリーン
AF 測距エリアを表示した明るいフォーカシングスクリーンです。暗い照明条件でも明るい象が得られます。6x4.5 のフレームを表示しています。
ローライフレックス Hy6 の標準スクリーンです。

Rolleiflex Hy6 システムチャート



Rolleiflex Hy6 システムチャート



トラブルシューティング

問　題	原　因	処　置
カメラが動かない	●カメラのスイッチが入っていない ●電池が入っていないか、電池が空になっている	→電源スイッチ [60] を □ または ⧉ に入れる。 →電池を挿入するか、または充電する
カメラが作動せず、マガジンのディスプレイに "S LI dE"と表示が出る	●マガジン引き蓋のグリップがストップに合っていない ●レンズがロックされていない	→引板グリップハンドル [42] を "magazine change/turn"の方向に一杯に動かす →レンズをしっかりロックする
フィルムがフレーム1まで進まない	●フィルムがカールしていて、フィルムリーダーのループから外れている	→必要に応じてフィルムを装填する際にフィルムリーダーをきつく巻く
PQSレンズで------が表示される	●BかTにセットされている	→適切なシャッタースピードにセットする
シャッターがすぐに切れない。	●カスタム機能のセルフタイマーが機能している	→カスタム機能スイッチを"norm"にセットする
フォーカススクリーンに画像が出ない。	●ミラーがロックアップされている	→レリーズボタンを押し、必要なら露出表示を見直す
無限遠でファインダーの映像がぼけている	●フォーカススクリーンのアラインメントが不適当か、スクリーンがセットされていない ●マグニファイヤーが使用者の目に合わない	→スクリーンを正しく装着する（マット面を下に） →保持枠をしっかり押さえる →目に合ったマグニファイヤーに交換する（視度+3.5～-4.5まであり）
シャッターが切れない	●AFがフォーカス優先("Single"ポジション)にセットされていて、コントラストの関係で合焦が不可能	→フォーカスモードメニュースイッチ [54] を"M"または"C"にセットする →被写体と等距離の物体を代用して合焦する
露出表示には問題ないのに、シャッターが切れない	●電池の力不足でカメラの電源スイッチがOFFされている	→電池を交換するか充電する
電池がすぐに空になる	●使用温度が低すぎる	→電池を保温しておき、充電する →外部電池コネクターを使い交換可能電池を使う

問題	原因	処置
フィルム巻上げ中に、カメラの電源が切れる	●フィルムベースが、例えば冷蔵庫に入れて置いたとか、非常に寒い場所にあって、固くなり過ぎている	→フィルム（カメラ）を適切な温度の場所に戻すか、可能ならばフル充電された予備電池に交換する
連続撮影中にカメラの電源が切れる	●電池の力不足	→可能ならば、フルに充電した電池を使う
デディケーテッド・フラッシュモードでフィルフラッシュが作動しない	●フィル・イン・フラッシュを選択していない	→補正スイッチ上でフィル量を-1/3EVから-3EVまでの間（補正）または+1/3EVから+2EVまでの間（additive）でセットする
不正確な露出	●ミラーをロックアップした後の光線状態変化	→光線状態がどんどん変わる時にはミラーをロックアップせず、シャッターを切る寸前までAEをフルに作動させる
	●強い迷走光がファインダースクリーンに到達（特に蛍光灯から）	→ファインダーのマグニファイヤーホルダーを上げ、光線が直接に当たらないようにする →難しい光線状態の時はファインダーフードを閉めるか、他のファインダーを使用する
	●ファインダーに警告が出ているのを無視した	→1枚撮影するごとに露出データを読み、警告に注意する。
プリフラッシュを使用したのに露出の誤差がでる	●強い迷走光	→強い迷走光を避ける →難しい光線状態の時はファインダーフードを閉める →必要ならその他のファインダーを使う
カメラがAFモードで合焦しない	●被写体のコントラストが低すぎる	→被写体とほぼ等距離にあり、もっとコントラストがあるものでピントを合わせる
AFモードで合焦が外れる	●強い迷走光	→強い迷走光を避ける（例えばファインダーフードを閉めるか、必要ならその他のファインダーを使う）
フィルムの最後の1,2枚が未露出で残る	●装填の際に充分巻き上げられていない	→矢印がフィルムのマークに合うまでフィルムを巻き上げる

仕様

カメラの形式	コンピュータ制御のレンズ交換式ロールフィルム／ デジタルカメラバック用AF一眼レフシステムカメラ
AF機能	AFクロスセンサー 低光量条件下でのオートフォーカスのため赤色光グリッドプロジェクター内蔵 フォーカスエイド機能で6000シリーズレンズが使用可能
フィルム画面サイズ	6×6cmおよび6×4.5cm（6×6cmは準備中）
使用フィルム	6×4.5cmフレームで16枚撮または32枚撮の 120サイズまたは220サイズロールフィルム
フィルム感度	交換式フィルムマガジンにISO/25—6400まで1/3単位で設定可能
シャッター	1/1000（PQSレンズ）から32秒とバルブ（B）、タイム（T）で 設定可能な電子制御レンズシャッター
測光方式	■マルチゾーン平均測光 ■中央部重点マルチゾーン測光 ■フレーム中央部のフォトセルによるスポット測光（6×6cm判でフレームの約1%） ■測光および撮影中は自動的にファインダースクリーン側からの入射光を補正 ■デジタル撮影でのホワイトバランス用RGBセンサー内蔵
露光モード	■シャッタースピード優先AE ■絞り優先AE ■プログラムAE ■マニュアルモード（1/3ステップ）
測光範囲	■露光測光　EV0からEV19、ISO 100フィルム（80mmF/2.8レンズ） ■オートフォーカス　EV 1からEV19、ISO 100フィルム（80mmF/2.8レンズ） ■TTLフラッシュ　ISO 25 －1600
AE/AFロック	全てのオートモードで作動、シャッタースピードと絞りをEVでロック
露光補正	■－5EVから＋5EVまで1/3ステップでマニュアル設定可能 ■ブラケットモード、1/3EV、2/3EV、1EVステップ
オートフラッシュ	■OTF TTLフラッシュ測光 ■フラッシュ準備完了とモニタリングをファインダー表示 ■専用メッツフラッシュ使用でオートフラッシュ作動が可能、加算式フィルフラッシュ
フラッシュ・シンクロ	1/1000秒から32秒までの全てのスピードに同調 ホットシューはメッツの専用フラッシュシステム SCA-3562アダプター経由でのSCAインターフェースが使用可能
最短のシャッター タイムラグ	シャッターボタンを押してから実際に露光が始まるまでのタイムラグ PQSレンズ：2ミリセコンド超高速レスポンス PQレンズ：約3-4ミリセコンド超高速レスポンス
被写界深度プレビュー	モードを問わず、絞り込みボタンにより可能
ミラーロック	モードを問わず、AEロックも行なわれる
レンズマウント	ローライバヨネットマウント／絞りとシャッター制御のための10接点信号ピン装備 ベローズアタッチメント、接写リング、リバースアダプターを使用時も露出制御が可能
多重露光	電気的にフィルム送りを停止
反射ミラー	半透明マルチコーティングが施されたダイレクトドライブ反射ミラー ミラーロック可能

ミラー	部分透過の多層幕コーテイングを施したクイックリターンミラー ダイレクトドライブとミラーロック（ロックアップしたミラーは露出の前にいつでも引き下げ可能）
ビューファインダーシステム	着脱式マグニファイヤー付交換式折り畳みファインダーフード標準装備 各種フォーカシングスクリーン 高輝度ハイDフォーカシングスクリーン標準装備
ファインダー表示	フォーカス状況、シャッタースピードと絞り（1/3ステップ）、マニュアル測光での露出バランス、露光補正、スポット測光、フラッシュ準備完了状況、フラッシュモニター、カスタム機能、バッテリーモニターなどをLCD表示
ハンドグリップの制御用ディスプレイ	バックライト付きの制御用ディスプレイで、 AEロック、AFモード、絞り、露出補正、ライトメーター、シャッタースピード、ミラーロック、ISO感度、フラッシュモード、測光パターンを表示
フィルム送り	マガジンに内蔵の高性能モーターにより、 シングルフレームまたは秒2フレームでの連続撮影オートフィルム給送 フレーム1に自動給送、最終フレーム撮影後に自動巻上げ
パワーサプライ	充電式 高性能リチウムイオンバッテリー
ハンドグリップ	4箇所でのクリックストップ 着脱式レザー・リストストラップ
交換式フィルムマガジン	■6×4.5cm判4560マガジン （内蔵の一体型ラミネートスライド、フレームカウンター、フィルム感度設定、フィルムサイズインジケーターおよびフィルムインサート付） ■6×6cm判6060マガジン（準備中）
カスタム機能、メニュー設定	■フラッシュ同調方式（前シンクロ、後シンクロ） ■プリフラッシュ測光 ■セルフタイマー ■AEブラケット（1/3、2/3、1 EVステップで可能） ■フォーカスブラケット ■トラップ機能 ■ウルトラファスト機能（デジタルバック使用時のみ）
インターフェース	■デジタルバック用インターフェース ■電気的ケーブルレリーズおよびその他の電子的アクセサリー用に 8ピンユニバーサルスクリュージャック ■デジタルバックおよびPC用インターフェース（MasterWare） ■ミニUSBソケット（ファームウエアアップデート等に使用）
作動温度範囲	－20℃ ～ ＋60℃
クイックレリーズ三脚プレート	1/4インチと3/8インチ三脚ソケット付
デジタルバック	Sinar、Leafブランドのデジタルバックに対応 （※詳細はSinar、Leaf各代理店へお問合せください）
レンズ	Schneider AF用レンズ 50mm/80mm/150mm/180mm/60mm－140mmズーム 6000系用PQ/PQSレンズはフォーカスエイドで使用可能
サイズと重量	■サイズ：W157 x H112 x D78mm（本体のみ、レンズとマガジン別） ■重量：990g（本体のみ、バッテリー込）

ローライフレックス日本総代理店

KOMAMURA
CORPORATION

株式会社駒村商会

〒 103-0013
東京都中央区日本橋人形町 3-2-4
TEL.03-3639-3351 FAX.03-3808-0115

www.komamura.co.jp

● この取扱説明書は2008年4月現在のものです。

● この取扱説明書に記載の製品の仕様・外観・価格に関しては予告なしに変更される場合があります。